お客様へ

商品・お取扱い・修理・工事などのご相談は、お買い求めの販売店・工事店へ。
または下記、パナソニックお客様ご相談センターまでお申し付けください。

商品についてのご相談は
パナソニック
お客様ご相談センター

0120-878-365（パナは 365日）
●携帯電話・PHS・一部のIP電話・FAX等のご利用は…
☎06-6907-1187　FAX. 0120-878-236
●受付時間…365日／9:00～20:00

ホームエレベーター・小型エレベーターの「リフォーム設置」についてのご相談は
下記、パナソニック ホームエレベーター「リフォーム相談室」までお申し付けください。

エレベーター「リフォーム設置」についてのご相談は
パナソニック ホームエレベーター
リフォーム相談室

0120-03-1102
●受付時間…月～金／9:00～17:00
土・日・祝日（年末年始、GW、夏期休暇など）は除く

パナソニック電工と誤認させて、電話勧誘したり、強引に販売する住宅設備・建材の訪問販売業者にご注意ください。
訪問販売や電話勧誘販売は消費者保護を目的とした法律※の適用を受けます。●特定商取引法（旧訪問販売法）※●消費者契約法（消費者と事業者が結んだ契約全てが対象です）※

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い
パナソニック電工株式会社およびその関係会社は、お客様の個人情報やご相談内容を、ご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。なお、折り返し電話をさせていただくときのため、ナンバー・ディスプレイを採用しています。お問い合わせは、ご相談された窓口にご連絡ください。

A300027(01)
パナソニック電工は2006年8月、日本情報処理開発協会より適切な個人情報取り扱い事業者に付与される『プライバシーマーク』を取得しました。

代理店様、販売店様へ

ホームエレベーター・小型エレベーターに関するお問い合わせは
北海道 ☎011-736-2331 北海道地区　**仙台** ☎022-261-0528 東北地区　**東京** ☎03-6218-1635 首都圏・関東地区　**名古屋** ☎052-582-5652 中部地区　**大阪** ☎06-6943-5471 近畿地区　**広島** ☎082-544-0244 中国・四国地区　**福岡** ☎092-522-2110 九州地区
パナソニック ホームエレベーター株式会社　☎06-6900-2655　●受付時間…月～金 9:00～17:00 土・日・祝日（年末年始、GW、夏期休暇など）は除く

安全に関するご注意

●ご使用の前に「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
●この商品は屋内専用です。雨、風のあたる場所や屋外には設置しないでください。
●電気製品ですので、表面に結露を生じるような湿気の多い場所に設置しないでください。
●この商品は専門施工が必要です。また、定期的な点検も必要です。
　なお、弊社および弊社指定業者以外の業者が施工、点検した場合はエレベーターの機能に責任を負いかねます。
●エレベーター専用ブレーカー（100V、200V用）を設置してください。
●ピット内に水が貯まった場合、駆動装置が水没し故障する恐れがありますので、ピット内に水が入らないようにしてください。
●エレベーターの操作はご家族の方（適切な判断力があり正しい運転操作をご理解いただいている方）に限られています。
　お客様がお乗りになる場合は、ご家族の方が運転操作を行ってください。

ご購入の前に

●商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。
●印刷物と実物では多少色味が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

その他のご注意

●ホームエレベーターは利用者が特定される個人住宅用商品です。不特定多数の方が利用される場合設置できません。小型エレベーターは利用者が特定される小規模建物用商品です。限定された家族、高齢者、身障者、妊婦等が建物施設を利用する際の補助を目的とします。　●ホームエレベーターを設置する場合、行政庁へ昇降機確認申請書を提出しなければなりません。　●防火建物で防火区画が必要な場合、弊社にご相談ください。　●ご購入後、弊社とメンテナンス契約の締結をお勧めします。（有償）

●商品・お取扱い・修理・工事などのご相談・お問い合わせは、お買い求めの販売店・工事店へ。

■発行
パナソニック電工株式会社　住建マーケティング本部
〔〒105-8301〕東京都港区東新橋1丁目5番1号
© Panasonic Electric Works Co, Ltd. 2008
〈製造〉パナソニック ホームエレベーター株式会社
本書からの無断の複製はかたくお断りします。
このカタログの記載内容は
平成20年10月現在のものです。
助成物No.PKCT1C22V　200810-6YK　第1版

商品ブランド変更に関するお知らせ	商品ブランドは、ナショナルからパナソニックに順次切り替わります。

Panasonic
ideas for life

ホームエレベーター

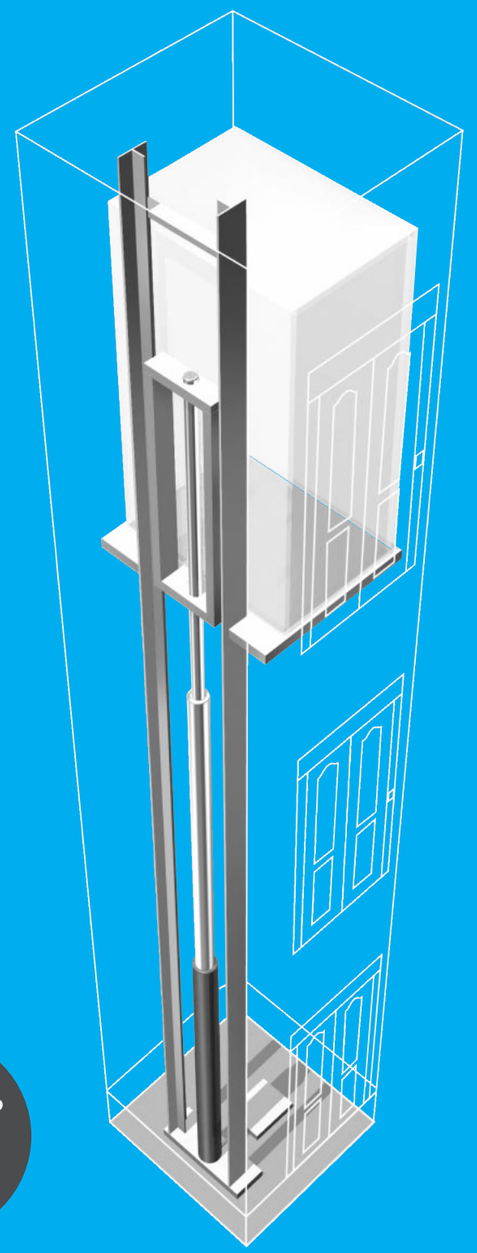
設計資料集

油圧式 ホームエレベーター

3人乗り	NEW グランド NEW XLクラシック NEW 1414クラシック NEW 1414ジョイモダン
2人乗り	NEW 1212クラシック NEW 1212ジョイモダン NEW 1608パーソナル NEW 0816パーソナル NEW 1208パーソナル NEW 0812パーソナル

油圧式 小型エレベーター

3人乗り	NEW XLなごみ NEW 1414なごみ



設置計画から
完成・検査・
お引渡しまで

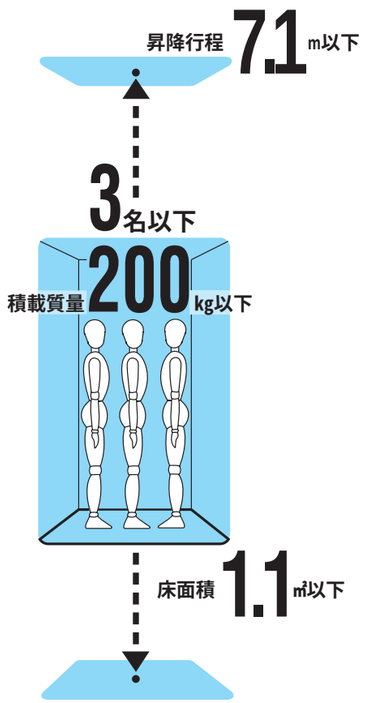
新商品掲載版

2008.10
住まいの設備と建材のサイト　panasonic.jp/sumai/
ホームエレベーターのサイト　panasonic.jp/sumai/elevator

パナソニック電工

ご採用時のご注意

油圧式ホームエレベーターを設置する場合、次の条件を守っていただきますようお願いいたします。



〈設置場所の条件〉

- 個人住宅内に限ります。
- 店舗付住宅や長屋建てなどの個人住宅に設置する場合も、家族の方のみが利用できるようにレイアウトしてください。
- 託児所・塾・下宿などには、設置できません。

〈使用者の条件〉

- 使用者は、その住宅に同居する家族とし、十分な判断力と操作能力のある方が運転操作を行ってください。

〈油圧式ホームエレベーターの仕様条件〉

- 床面積　1.1㎡以下
- 積載質量（定員）　200kg（3名）以下
- 昇降行程　7.1m以下

〈維持・管理の条件〉

- 定期的な点検・整備の契約を締結し、常時適切な状態に維持保管する必要があります。そして、その点検記録を3年以上保管することが義務づけられています。

小規模な建物には小型エレベーターが設置できます。
設置にあたっては下記事項をお守りください。

専用カタログをご用意しておりますので、別途お問い合わせください。

〈小型エレベーターが設置できる建物〉

- 神社、寺院、教会その他これらに類するもの
- 診療所（患者収容施設のないものに限る）
- 助産所
- 老人ホーム、身体障害者福祉ホーム、グループホームその他これらに類するもの
- 保育所その他これらに類するもの
- 児童福祉施設等
- 養護学校、盲学校又は集会所

〈使用目的〉

限定された家族、高齢者、身障者、妊婦等が建物施設を利用する際の補助を目的とします。

〈使用条件〉

①1日のエレベーターの使用回数は50回以下とすること。②管理責任者を選任し、その管理のもとで使用すること。

地方自治体の福祉条例等の規定で設置が認可されない場合もあります。詳細は管轄する自治体にご確認ください。

安全に設計していただくために

■本書の≪記号≫について

本書では、特に重要な事項や知っておいていただきたいことを、記号を用いて説明しております。
それぞれの記号とその内容は下記の通りです。

⚠警　告	警告事項を守らないと、死亡や重傷に至る重大な事故を起こす恐れがあります。また、エレベーターの許可を得ることもできません。
⚠注　意	注意事項を守らないと、ケガを負ったり、エレベーターが損傷を起こす恐れがあります。
アドバイス	本製品の機能を正しく引き出すために、知っておいていただきたいことについて説明します。

INDEX

構造概要・種類・基本仕様 …… 3
ホームエレベーターが設置されるまで …… 5
設計・施工の際のご注意 …… 7
法規 …… 9
建物の構造計算 …… 12
建築工事区分 …… 14
木造住宅標準施工図・扉納まり図 …… 15
コンクリート住宅標準施工図・扉納まり図 …… 23
鉄骨住宅標準施工図・扉納まり図 …… 31
電気・電話工事 …… 43

■タイプ別掲載ページ一覧（　）内は二方向出入口標準施工図の掲載ページです。

タイプ名	木造住宅		コンクリート住宅		鉄骨住宅		
	標準施工図	扉納まり図	標準施工図	扉納まり図	標準施工図		扉納まり図
					梁あり	梁なし	
NEW グランド	15(16)	17	23(24)	25	31(32)	33(34)	35
NEW XLクラシック	15(16)	17	23(24)	25	31(32)	33(34)	35
NEW 1414クラシック	15(16)	17	23(24)	25	31(32)	33(34)	35
NEW 1212クラシック	18	20	26	28	36	38	40
NEW 1414ジョイモダン	16	17	24	25	32	34	35
NEW 1212ジョイモダン	18	20	26	28	36	38	40
NEW 1608・0816・1208・0812パーソナル	19	20	27	28	37	39	40
NEW XL・1414なごみ	15(16)	17	23(24)	25	31(32)	33(34)	35

構造概要・種類・基本仕様

構造概要

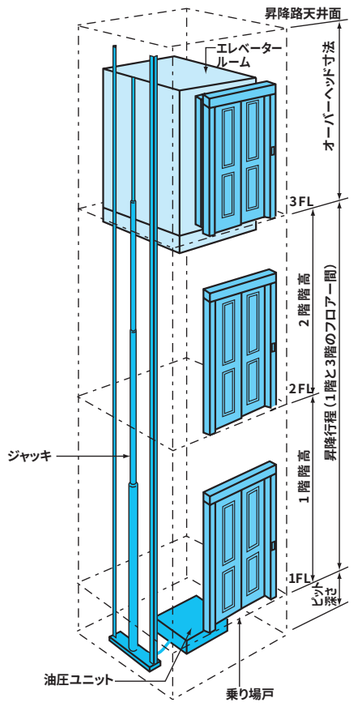
油圧式ホームエレベーター は、人とその暮らしにやさしく機能するためにさまざまな工夫を施しています。
本資料では、さまざまな情報をできる限りわかりやすくご紹介しています。

低重心構造の油圧式です。

建物に影響を与えにくい低重心構造だから地震にも強く、乗り心地がとてもソフトです。
また機械室を屋上や階段下などに設置する必要がないので、幅広いプランに対応できます。

NEW グランド
NEW クラシックシリーズ
NEW なごみシリーズ

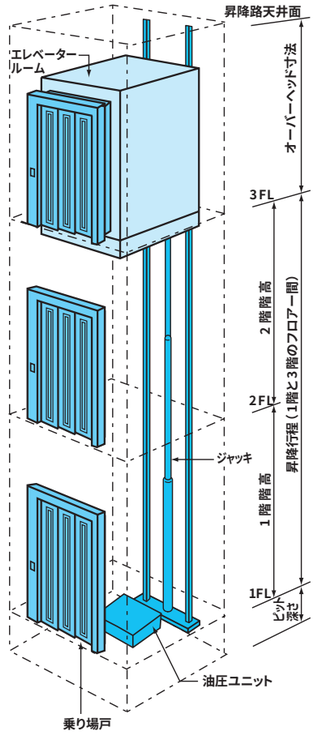
※3カ所停止まで対応できます。(昇降行程は7.1m以下)



NEW パーソナルシリーズ

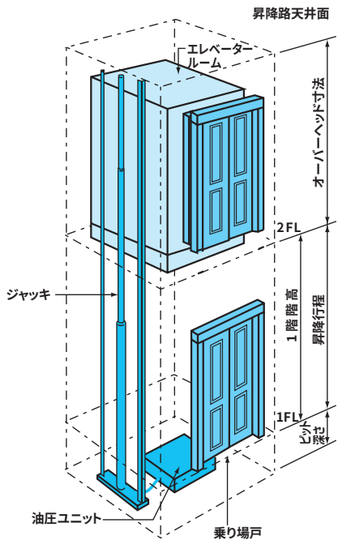
※イラストはNEW 0816・0812パーソナルです。

※3カ所停止まで対応できます。
(昇降行程は6.2m以下)



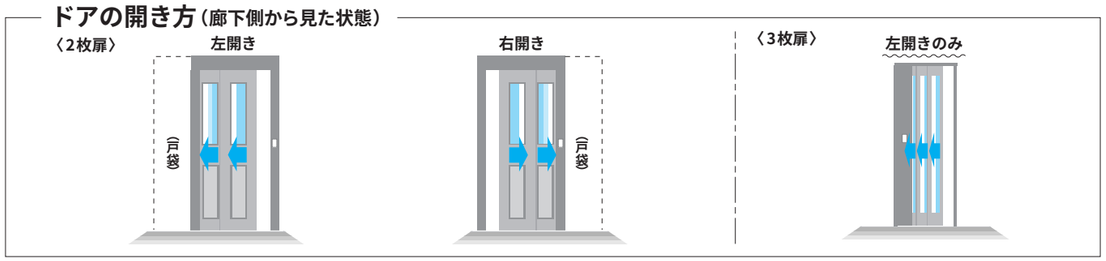
NEW ジョイモダンシリーズ

※2カ所停止のみ対応できます。(昇降行程は3.6m以下)
※「乗り場呼ボタン」は壁付けになります。



アドバイス 昇降行程とは、エレベーターが走行する最下階から最上階の床面までの高さです。

ドアの開き方(廊下側から見た状態)



※廊下側から見て、左開きとはドアが左に開くタイプ、右開きとはドアが右に開くタイプを示します。

■基本仕様

タイプ名		NEW グランド	NEW XL クラシック	NEW 1414 クラシック	NEW 1212 クラシック	NEW 1414 ジョイモダン	NEW 1212 ジョイモダン	NEW 1608 パーソナル	NEW 0816 パーソナル	NEW 0812 パーソナル	NEW 1208 パーソナル	NEW XL・1414 なごみ
用　途		個人住宅用										小規模建物用
駆動方式		油圧直接式										
定　員 (積載質量)		3人乗用 (200kg) 車椅子 (標準)併用	3人乗用 (200kg) 車椅子 (標準)併用	3人乗用 (200kg) 車椅子 (標準)併用	2人乗用 (150kg) 車椅子 (小型)併用	3人乗用 (200kg) 車椅子 (標準)併用	2人乗用 (150kg) 車椅子 (介護用)併用	2人乗用 (150kg) 車椅子 (介護用)併用	2人乗用 (150kg) 車椅子 (介護用)併用	2人乗用 (130kg)	2人乗用 (130kg)	3人乗用 (200kg) 車椅子 (標準)併用
電　源		単相200V(モーター用)、100V(照明用)										
モーター容量		2.8kW				1.5kW		2.8kW				
速　度		20m/分以下										
昇降行程		7.1m以下(3カ所停止以下)				3.6m以下 (2カ所停止以下)		6.2m以下(3カ所停止以下)				7.1m以下 (3カ所停止以下)
寸法	ルーム内寸法(mm) 開口	850	850	850	730	850	730	1300	650	650	770	850
	ルーム内寸法(mm) 奥行	1150	1290	1150	950	1150	950	605	900	650	570	1290 (なごみ1414は1150)
	ルーム内寸法(mm) 高さ	最大2090	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000
	戸の開口寸法(mm) 開口	800	800	800	680	800	680	800	500	500	680	800
	戸の開口寸法(mm) 高さ	1850	1850	1850	1850	1850	1850	1850	1850	1850	1850	1850
出入口形式		片引き2枚戸(自動式)							片引き3枚戸(自動式)		片引き2枚戸(自動式)	
ルーム内 操作パネル		LED照光型ボタンスイッチ(非常用停止スイッチ付)										
乗り場呼ボタン		LED照光型ボタンスイッチ(運転キースイッチ付:1カ所)										
外部連絡装置		電話機(ワンタッチ通報ボタン付)※電話回線はお客様にて別途手配ください。										
停電灯		停電になると自動的に点灯										
到着階待機機能		到着した階に2時間待機(2時間以上使用しないとあらかじめ設定したフロアーで待機します。)										
停電時自動 着床装置		停電になると10秒以内に最下階への運転を開始										
緊急時手動 下方階着床装置		万が一に備えて、コンタクトセンターからの電話での誘導により手動で下方運転する機能。										

※商品改良のため、仕様、外観は予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。

■オプション

●印の箇所はオプションで対応しております。

		NEW グランド	NEW XL クラシック	NEW 1414 クラシック	NEW 1212 クラシック	NEW 1414 ジョイモダン	NEW 1212 ジョイモダン	NEW 1608 パーソナル	NEW 0816 パーソナル	NEW 0812 パーソナル	NEW 1208 パーソナル	NEW XL・1414 なごみ
ヨコ型手すり		標準装備	標準装備 ●(増設)	標準装備 ●(増設)	標準装備 ●(増設)	標準装備	標準装備	●	●	●	●	標準装備
三方向連続手すり		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
ルームミラー		標準装備	●	●	●	●	●	●	●	●	●	標準装備
鋼板製難燃戸(1カ所)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—
車椅子用ガード		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
マルチビーム ドアセンサー	一方向出入口	標準装備	標準装備	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	二方向出入口	標準装備	標準装備	●	●	—	—	—	—	—	—	●
二方向出入口※		●	●	●	Ⓤオーダー	—	—	—	—	—	—	●
通過階マイナス(1カ所)		●	●	●	●	—	—	●	●	●	●	●
換気扇		標準装備	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
管理キースイッチ(1カ所増設)		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

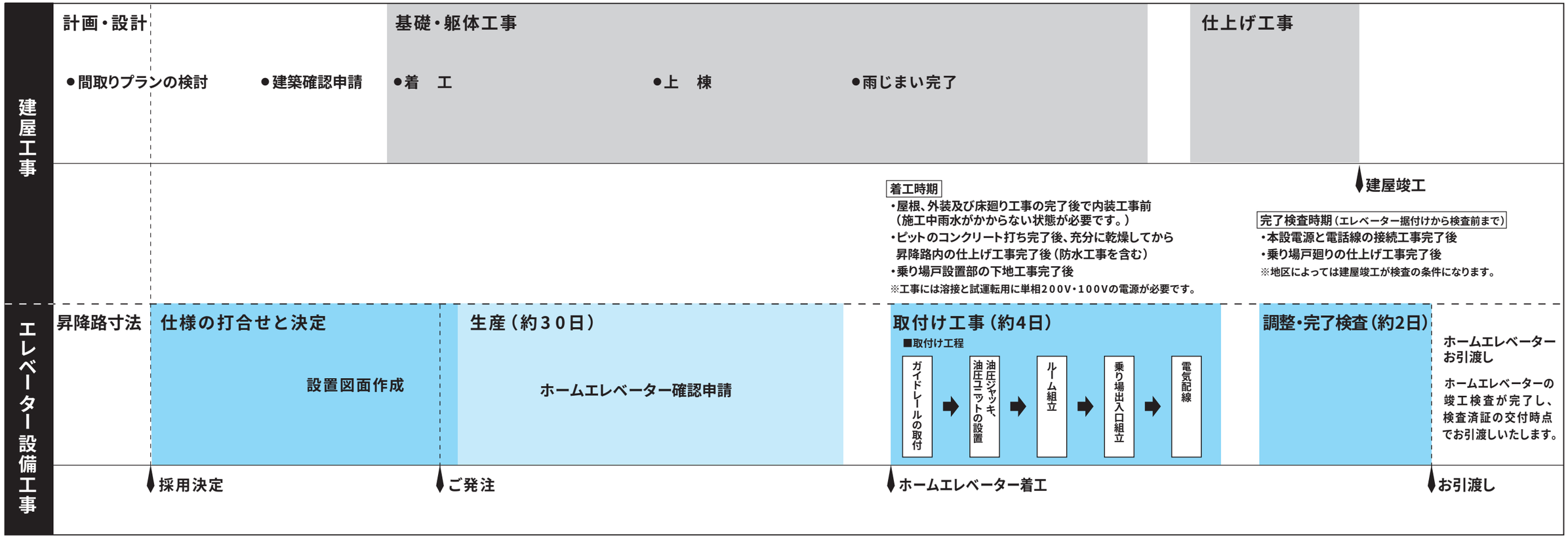
※ルームミラーは、「二方向出入口」との組み合わせはできません。

■Ⓤオーダー

	NEW グランド	NEW XL クラシック	NEW 1414 クラシック	NEW 1212 クラシック	NEW 1414 ジョイモダン	NEW 1212 ジョイモダン	NEW 1608 パーソナル	NEW 0816 パーソナル	NEW 0812 パーソナル	NEW 1208 パーソナル	NEW XL・1414 なごみ
展望窓	●	●	●	●	—	—	—	—	—	—	—
ルーム内奥行き寸法変更	—	—	●	●	—	—	—	—	—	—	—
指定階不停止機能	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

構造概要・種類・基本仕様

ホームエレベーターが設置されるまで



■ご発注に際してのご連絡事項

ホームエレベーターのご発注に際しては、次の項目についてご連絡ください。

- ◆ 建物名称・建設地住所・工期
- ◆ 建築確認番号・日付
- ◆ エレベーターの仕様
  - ● 定員
  - ● 昇降行程
  - ● 昇降路寸法（間口・奥行）
  - ● 出入口方向（一方向または二方向）
  - ● 防火区画の要、不要
  - ● 各階階高（エレベーターホールの床仕上げ面から次の階の床仕上げ面までの距離）
  - ● 停止個所（最大3カ所）
  - ● 建物構造（エレベーター昇降路の構造）
  - ● 電源周波数
  - ● ピット深さ
  - ● オーバーヘッド寸法
  - ● 出入口扉のカラー
  - ● エレベータールームの内装仕様
  - ● オプションの採否（ルームミラーなど）

■ご提出資料

- ●各階平面図
- ●断面図
- ●基礎伏図
- ●鉄骨柱.梁伏図（鉄骨住宅のみ）
- ●建築物の確認済証及び確認申請書第一面から第五面の写し（建築確認申請書副本からのコピー）
- ●付近見取り図

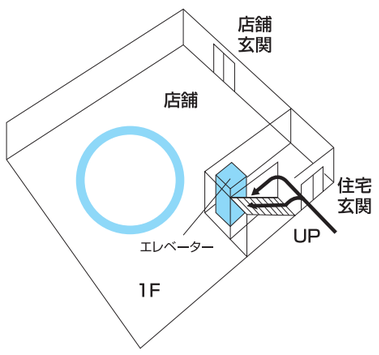
ホームエレベーターが設置されるまで

設計・施工の際のご注意

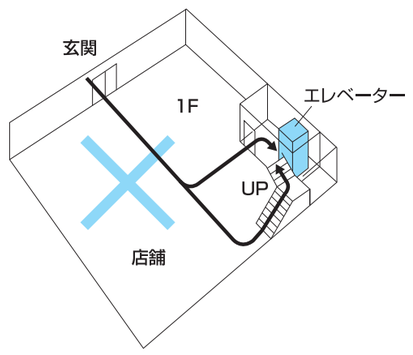
設置する建物の用途

警 告

ホームエレベーターは個人住宅専用のエレベーターですので、共同住宅・店舗・倉庫などの建物には設置できません。
店舗付住宅や階下をテナント貸しする場合、ホームエレベーターの出入口は個人住宅内だけに設けるようにしてください。
玄関が店舗やテナントと同じ階の場合は、ホームエレベーターホールを壁などで間仕切りしてください。



店舗と住宅が完全に区別されている建物



店舗側からでもエレベーターに入れる構造の住宅

昇降機の昇降路の防火区画について

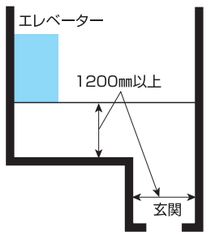
法的に防火区画（竪穴区画）が適用される建物にエレベーターを設置する場合、従来はエレベーターの乗場戸を昭和56年旧建設省告示第1111号に基づく甲種又は乙種防火戸とする事により、エレベーターの乗場戸は「遮炎」性能を有する防火設備であると認められておりましたが、建築基準法改正により、今後は乗場戸の近傍で「遮炎・遮煙」の両者の性能を有した防火設備で区画する必要があります。
（2002年5月31日をもって、昭和56年建設省告示第1111号は失効となり、エレベーター乗場戸により防火区画を形成する事はできなくなりました。）エレベーターの乗場戸は鋼板製戸（オプション）にすることで遮炎性能のみを有する事はできますが、遮煙性能については建築工事にて対策をお願いします。

※詳しくは45ページをご覧ください。

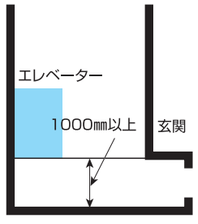
〈参考〉部品（ユニット）搬入経路のスペース確保

通路（玄関→ホール→昇降路）所要幅

■通路が曲がっている場合



■通路がまっすぐな場合



エレベーター部品の保管場所借用

保管スペース

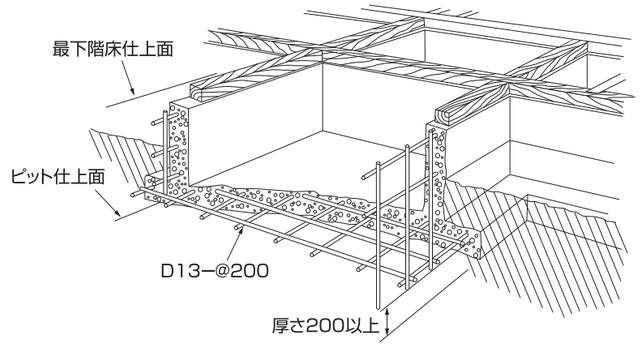
部　品　名	保 管 場 所	所要スペース（平面寸法）
エレベーター乗場戸	各階エレベーター入口付近	1000㎜×2000㎜
エレベーター制御盤、油圧ユニット	最下階の昇降路	———
エレベーターホール、その他の部品	最下階の昇降路	1000㎜×2000㎜

木造・コンクリート・鉄骨住宅共通

ピットの構造

警 告

ピットは、十分な強度がないと、エレベーターが破損し重大な事故が起こる原因となります。



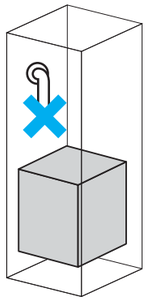
コンクリート設計基準強度は1764N/cm²（180kg/cm²）以上としてください。（D13−@200シングル配筋）
ピット内に漏水などがないように、防水仕上げをしてください。
この場合、防水仕上げ後の有効寸法で昇降路寸法を確保してください。

昇降路内の配管・配線

警 告

昇降路内にはエレベーターに使用する電源線、電話線以外に他の電線、配管などを設けることはできません。（建築基準法施行令第129条の2の5による）

※エレベーターに直接関係のない配管・配線をすると、それらの破損や断線等により漏電、水漏れ等が発生し、重大な事故の原因になります。



昇降路の壁仕上げ

警 告

昇降路は、人または物が昇降路内の機器に触れないよう、ピット内や天井裏も含めてすき間のない構造としてください。（建築基準法施行令第129条の7による）

※おびただしい塵埃等や水が流入すると、エレベーターが損傷する恐れがあります。

「エレベーターの設置環境のご注意点」

ご注意

次の設置環境が満たされない場合、エレベーターの品質、性能に影響を及ぼす恐れがあるため必ずご確認ください。
①エレベーターを設置するにあたり、エレベーター以外の緊急避難手段として階段は必ず設置してください。
②間取りプランによって、エレベーターホール内の前後に二方向出入口を設けることができますが、同一階での二方向や直角方向（出入口横方向）への出入りはできません。
③屋根、外装、床廻り工事完了後、雨水がかからない状態（雨じまい）としてからエレベーター据付工事を開始してください。
④エレベーターが発する作動音・振動が気になりやすい居室、特に寝室とは昇降路を離すよう配慮してください。特に昇降路がRC構造の場合、共鳴によりピットの駆動装置の音が増大されて、大きな騒音となる場合もあります。昇降路のまわりの壁を石膏ボード2重張りにする、遮音材を含む構成にするなどの設計を心がけてください。
⑤昇降路内壁や鉄骨部材に使用する塗料、接着剤、モルタルなどは、ホルムアルデヒドの発散が少ない材料を使用してください。
⑥エレベーターの乗場は屋内に設置し、外部から風雨が侵入しないよう配慮してください。屋上、駐車場などの外部に接する場合は、前室などを設けてください。エレベーターの扉に防犯性能は具備しておりません。
⑦エレベーターの乗場、駆動装置、制御装置に直接またはガラス越しの日光、ガラスや鏡による反射光ならびにエアコンなどの送風が直接あたらないように配慮してください。また、エレベータールーム内展望窓仕様の場合、昇降路が南、東、西に面した設置は真夏にはルーム内が高温になるので避けてください。
⑧温泉ガスなど、金属の磨耗及び腐食、ならびに電気接点の接触障害を発生させる科学的なガスなどがないように配慮してください。また、海岸近くの場合は、乗場に潮風が直接あたらないように配慮してください。
⑨その他、温度（摂氏ー5度～40度の範囲）、湿度（月平均90%以下、日平均95%以下）、特に結露、電磁波（電界強度10V/m以下）など一般的な環境においての対策を施して、設置されるように計画してください。

設計・施工の際のご注意

ホームエレベーターの確認申請手続きについて

ホームエレベーターを設置するには、建築確認申請の手続きに加え、下記の手続きが必要です。（木造2階建て住宅〈4号建物〉は建物との併願申請となります。）建築基準法により、エレベーター申請が義務付けされています。
（一部、12条5項の報告で可能なケースもあります。）

確認申請書作成

図書の内容		建築側で準備していただきたい資料（各2部）	チェック
昇降機	申請関係	建物の確認済証の写し及び 確認申請書第一面から第五面の写し	
	建屋との関連図	現場の付近見取図、配置図 建屋の各階平面図、建屋の断面図	

確認申請書の申請者捺印受領
確認申請書の申請者および代理人の委任状に捺印を受領します。

所轄行政庁への申請
申請書は、設置する所轄の行政庁、民間の確認検査機関等に提出します。その時に申請手数料を納めます。

確認通知書受領
法第6条第4項及び第87条の2で申請内容が、法、施行令などに適合している場合は7日以内に確認済証が交付されます。

工事着手
当該現場の工事を着手。

完了検査申請書の提出
完了検査申請書を所轄行政庁へ提出。（法第7条第1項）

所轄行政の工事完了検査
所轄行政庁の工事完了検査。（法第7条第4項）

検査済証
検査済証の交付。（法第7条第5項）

お引き渡し
取扱い方法を説明の上、お施主様にお引き渡しいたします。

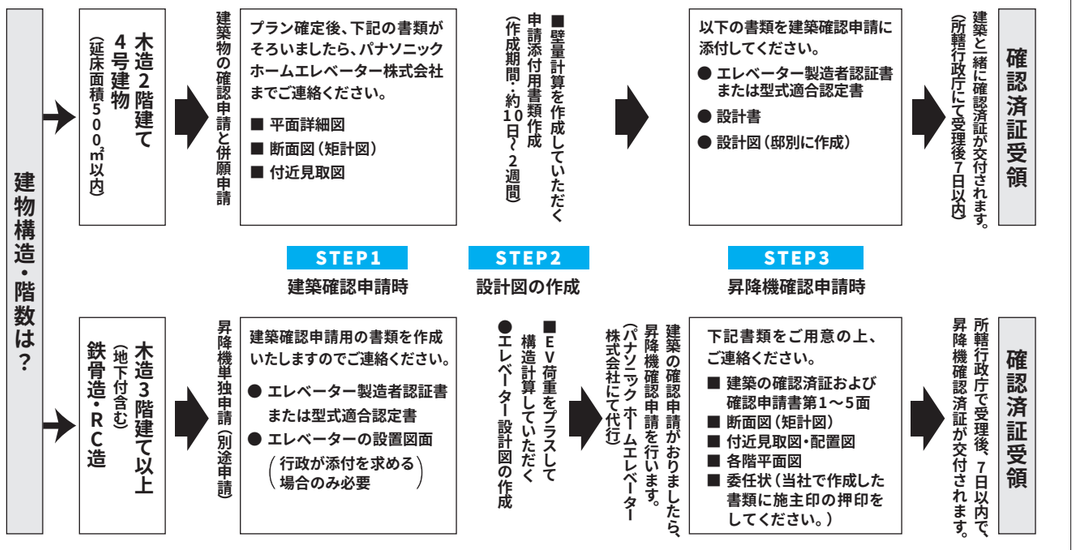
エレベーター確認申請と完了検査は義務付けされています。エレベーターの申請と官庁検査の受検はお施主様の委任をいただきパナソニック ホームエレベーター株式会社が代行いたします。

申請（ケースにより12条5項報告）は、建築主が行うことが建築基準法第6条に規定されています。その作業はパナソニック ホームエレベーター株式会社が代行しますが、下記の場合には、エレベーター申請を進めることができませんので、建築側にて事前に行政庁へ相談の上、変更申請等の作業をしていただく必要があります。

・建築確認申請書上にエレベーターが計画されていない。
・建築側で建物強度を証明できない。

ホームエレベーター確認申請フロー

■:建築側にてご用意いただくもの
●:パナソニック ホームエレベーター株式会社が用意するもの



建物の種別による法手続き（ホームエレベーター）

建物の種別		建築基準法第6条第1項　第1号	同　第2号	同　第3号	同　第4号	左記の第1号～4号以外
建物の概要		劇場・病院等の特殊建築物なのでホームエレベーターでは対象外	木造で3階以上または延べ面積500m²を超えるもの	木造以外の構造で2階以上または延べ面積200m²を超えるもの	左記の1～3号以外の建物で都市計画区域内等に建設されるもの	左記の1～4号以外のもの
建築	確認申請	○	○	○	○	×
	竣工検査	○	○	○	○	×
	検査済証	○	○	○	○	×
エレベーター	確認申請	–	○	○	○（建物との併願申請となる）	×
	竣工検査	–	○	○	○（建物と同時に行われる）	×
	検査済証	–	○	○	○（建物の検査済証が兼用される）	×
	工事の施工状況に関する報告（法12条5項）	–	×	×	×	○（行政庁が提出を求める）
備　考		ホームエレベーター対象外である				工事の施工状況に関する報告は必ず行うこと

建物の種別による法手続き（小型エレベーター）

建物の種別		建築基準法第6条第1項　第1号	同　第2号	同　第3号	同　第4号	左記の第1号～4号以外
建物の概要		劇場・病院・学校等の特殊建築物	木造で3階以上または延べ面積500m²を超えるもの	木造以外の構造で2階以上または延べ面積200m²を超えるもの	左記の1～3号以外の建物で都市計画区域内等に建設されるもの	左記の1～4号以外のもの
建築	確認申請	○	○	○	○	×
	竣工検査	○	○	○	○	×
	検査済証	○	○	○	○	×
エレベーター	確認申請	○	○	○	○（建物との併願申請となる）	×
	竣工検査	○	○	○	○（建物と同時に行われる）	×
	検査済証	○	○	○	○（建物の検査済証が兼用される）	×
	工事の施工状況に関する報告（法12条5項）	×	×	×	×	○（行政庁が提出を求める）
備　考						工事の施工状況に関する報告は必ず行うこと

建物の確認申請・検査について

ご注意

エレベーターの使用開始時には、エレベーターの検査済証が必要です。もし建物の検査済証が発行されていない場合、建築設備としてのホームエレベーターの検査済証も発行されません。スムーズにエレベーターを使用していただくために、必ず建物の確認申請を行ない、竣工検査を受けてください。

定期検査報告

ご注意

建築基準法第12条第2項の規定により、ホームエレベーターの所有者は昇降機検査資格者による年1回の定期検査を実施し、行政庁に結果を報告しなければなりません。
ただし、一部定期検査の実施規定から除外される行政庁もあります。
この定期検査および報告は、パナソニック ホームエレベーター株式会社にご用命ください。

ホームエレベーターのメンテナンスについて

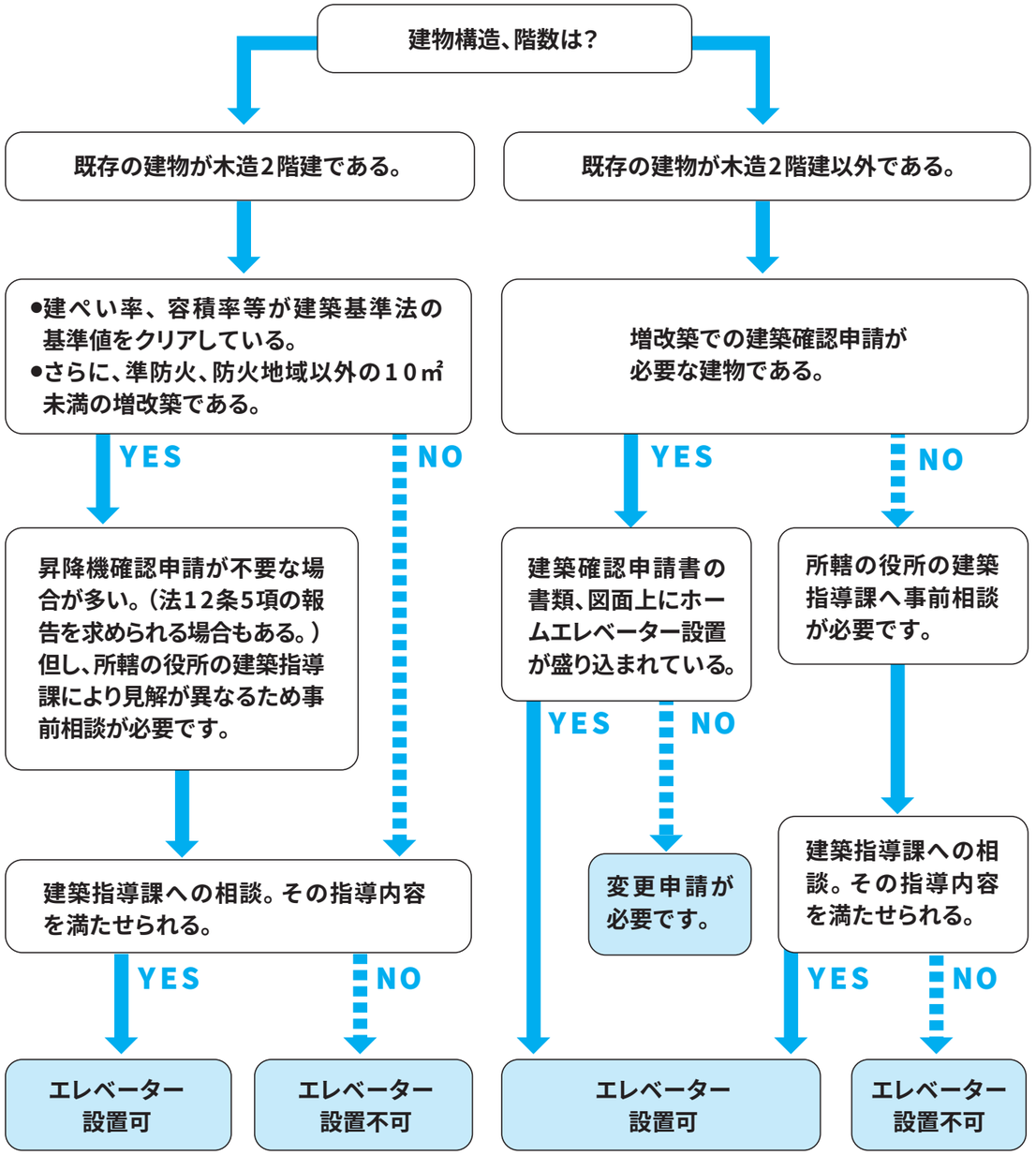
（法的な義務について）
ホームエレベーター・小型エレベーターには、建築基準法により、所有者に点検・検査に対しての法的義務があります。

■ 設置した設備を常時適法な状態に維持することが義務づけられています（建築基準法第8条：維持保全）。
■ 定期検査を受け、その結果を特定行政庁に報告する義務があります（建築基準法第12条2項:報告、検査等）。

※報告義務はホームエレベーターの一部地域およびすべての小型エレベーターが対象になります。
※弊社および弊社指定業者以外の業者が定期点検をした場合は、弊社はエレベーターの機能に責任を負いかねます。

法規

増改築でのホームエレベーター設置について



ご注意

- ●既存建物の建築物確認済証および完了検査済証等があれば、所轄の役所の建築指導課への相談がスムーズに行えます。
- ●所轄の役所の建築指導課では、建物の構造の安全確認や法適合性についての指導が行われます。
- ●所轄の役所の建築指導課により見解が異なります。上記フローチャートはあくまで判断のめやすとして、ご活用ください。

建物の構造計算

木造の場合（※構造計算がない場合）

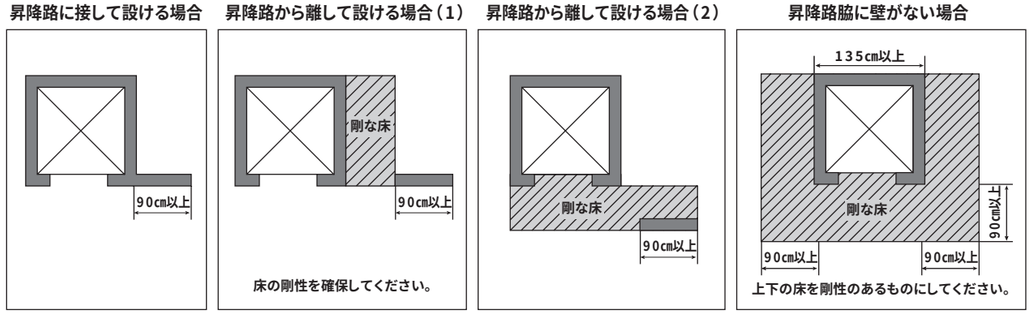
警告

（1）壁量算定は下記のとおりにしてください。

- ●昇降路廻りの耐力壁を除いた壁量が、建築基準法施行令第46条による壁量（施行令に示された数値に各階の床面積を乗じた値）以上になるようにしてください。
- ●エレベーター廻りの耐力壁を含めた総壁量が建築基準法施行令第46条による必要壁量の1.1倍以上になるようにしてください。

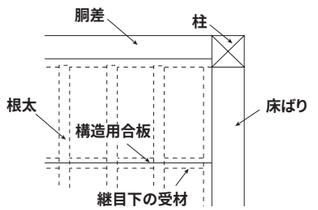
（2）昇降路周辺の耐力壁配置は下記のとおりにしてください。

- ●昇降路の4隅には必ず柱を配置してください。通し柱を用いるか、もしくはそれと同等な接合補強を行ってください。
- ●昇降路廻りの壁は壁倍率を2以上のものにしてください。ただし、筋かいによる場合はたすき掛けとし、両方向に効くものとしてください。（筋かいの寸法は、厚さ1.5cm 幅9cm以上としてください。）
- ●出入口反対側の昇行路壁が135cm以上確保されるならば出入口脇の壁は省略することができます。（ただし、NEW 0816・0812パーソナルは対象外です。）
  反対側の壁が135cm以上確保されない場合は、出入口の脇に90cm以上の壁（壁倍率2以上）を設けてください。



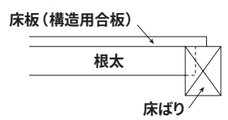
（3）昇降路内にはレールを固定するため木造補強材を取り付けます。

〈剛な床とは〉



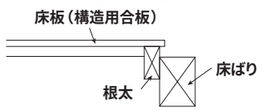
床組伏図

1.根太と床ばり（胴差）の上端高さが同じ場合

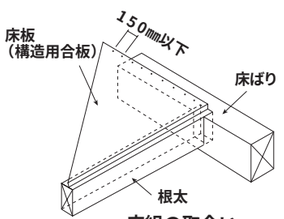


根太は床ばり（胴差）に大入れ落し込みとする

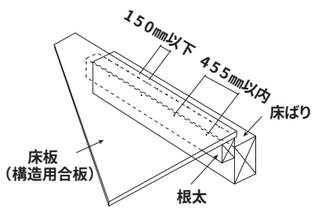
2.根太と床ばり（胴差）の上端高さが異なる場合



床ばり（胴差）の際にも根太を取りつける

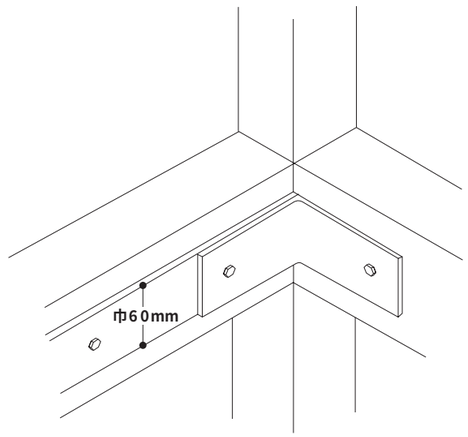


床組の取合い



床組の取合い

〈木造補強材とは〉
各階の床梁もしくは天井梁の内側でジャッキ設置側に取り付けします。（エレベーター側工事）



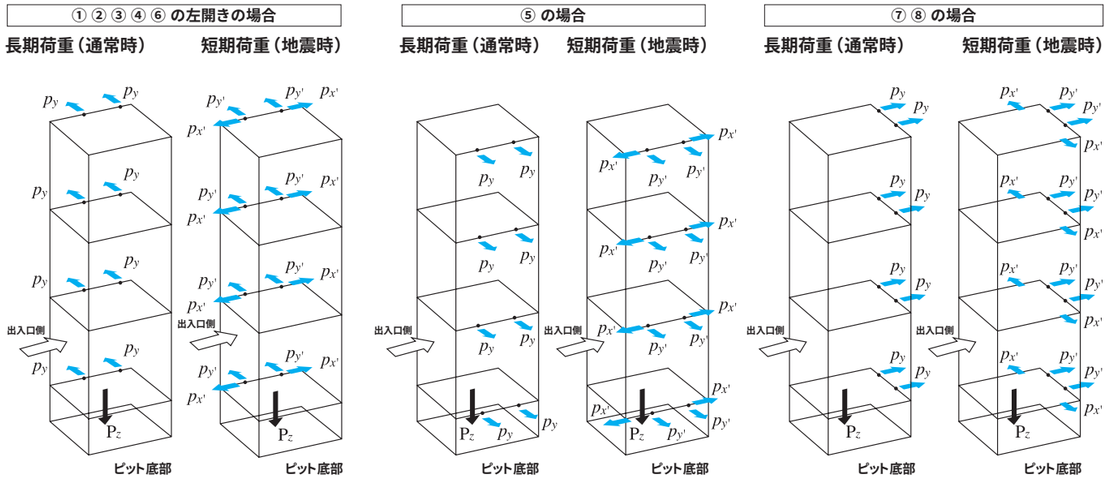
建物の構造計算

木造（構造計算が可能なもの）、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の場合

警告

本エレベーターにおいて平常時には下記の長期荷重が、地震時には短期荷重が建物の床梁に加わります。建物が下図の荷重に耐える構造でないとエレベーターが損傷し、エレベーター内の乗客に重大な事故が起こる原因となります。
昇降路は、下記の長期荷重および短期荷重に耐える構造にしてください。
ピット底部が充分な耐衝撃力を備えていないと、万一エレベーターが、ピット底部の緩衝器に衝突した際に、エレベーター内の乗客に重大な事故が起こる原因となります。ピット底部は下記の衝撃荷重に耐える構造としてください。

負担荷重



■エレベータータイプ別負担荷重一覧表

単位：N　（　）内はkg

エレベーターの名称			①NEW グランド NEW XLクラシック NEW 1414クラシック NEW XLなごみ NEW 1414なごみ	②NEW 1212 クラシック	③NEW 1414 ジョイモダン	④NEW 1212 ジョイモダン	⑤NEW 1608 パーソナル	⑥NEW 1208 パーソナル ⑦NEW 0812 パーソナル	⑧NEW 0816 パーソナル
水平荷重［N］	梁と垂直	長期荷重 p_y	930（　95）	550（　56）	760（　78）	530（　54）	790（　81）	460（　47）	820（　84）
		短期荷重 $p_{y'}$	930（　95）	680（　69）	500（　51）	460（　47）	680（　69）	610（　62）	650（　66）
		合 計 $P_y(=p_y+p_{y'})$	1860（ 190）	1230（126）	1260（129）	990（101）	1470（139）	1070（109）	1470（150）
	梁と平行	長期荷重 p_x	0	0	0	0	0	0	0
		短期荷重 $p_{x'}$	1845（ 189）	1358（139）	1000（102）	920（　94）	1358（139）	1202（123）	1287（132）
		合 計 $P_x(=p_x+p_{x'})$	1845（ 189）	1358（139）	1000（102）	920（　94）	1358（139）	1202（123）	1287（132）
垂直荷重［N］ P_z			11120（1135）	7650（781）	8900（908）	7650（781）	7650（781）	6540（667）	7260（741）

■軸組の種類と壁倍率（参考）

	軸組の種類	倍　率
1	土塗壁または木ずりその他これに類するものを柱および間柱の片面に打ち付けた壁を設けた軸組	0.5
2	木ずりその他これに類するものを柱および間柱の両面に打ち付けた壁を設けた軸組	1.0
	厚さ1.5cmで幅9cmの木材もしくは径9mmの鉄筋またはこれらと同等以上の耐力を有する筋かいを入れた軸組	
3	厚さ3cmで幅9cmの木材またはこれと同等以上の耐力を有する筋かいを入れた軸組	1.5
4	厚さ4.5cmで幅9cmの木材またはこれと同等以上の耐力を有する筋かいを入れた軸組	2.0
5	9cm角の木材またはこれと同等以上の耐力を有する筋かいを入れた軸組	3.0
6	2から4までに掲げる筋かいをたすき掛けに入れた軸組	2から4までのそれぞれの数値の2倍
7	5に掲げる筋かいをたすき掛けに入れた軸組	5.0
8	その他建設大臣が1から7までに掲げる軸組と同等以上の耐力を有するものと認めて定める軸組	0.5から5.0までの範囲内において建設大臣が定める数値
9	1または2に掲げる壁と2から6までに掲げる筋かいとを併用した軸組	1または2のそれぞれの数値と2から6までのそれぞれの数値と和

建築工事区分

建築側で準備していただく事項

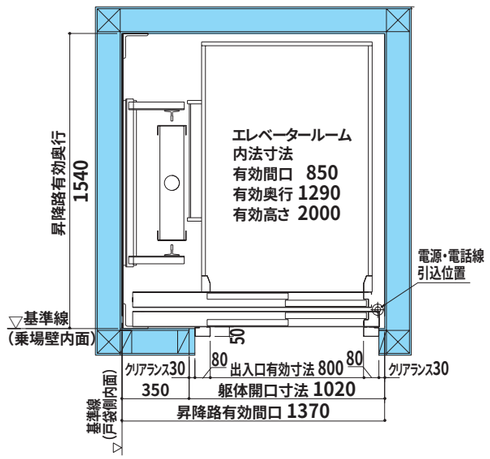
	項　目	NEWグランド・NEWクラシックシリーズ・NEWジョイモダンシリーズ・NEWなごみシリーズ	NEWパーソナルシリーズ	チェック
エレベーター工事前	昇降路の築造	◎ピット部分から屋根裏まで立ち上げてください。		
	昇降路有効寸法の確保	◎ピットに基礎梁などがある場合、その内側から確保してください。		
	昇降路内の仕上げ工事	◎昇降路はピット部分から屋根裏まで建物本体と昇降路との間には隙間がないように仕上げてください。 ◎エレベーター機器取付用プレート等以外に出張りがないように仕上げてください。 ◎エレベーターに関係のない配管配線を設けないでください。換気口等も設置しないでください。		
	ピットの築造	◎厚さ200mm以上のシングル配筋のコンクリート床としてください。 ◎防水仕上げ工事（必要な場合施工）		
	乗場躯体開口寸法の確保	◎NEW グランド 間口1030mm×高さ2052mm ◎NEW XL・1414クラシック 間口1020mm×高さ2074mm ◎NEW 1212クラシック 間口920mm×高さ2074mm（木造） 間口880mm×高さ2074mm（RC、鉄骨造） ◎NEW 1414ジョイモダン 間口910mm×高さ1905mm ◎NEW 1212ジョイモダン 間口790mm×高さ1905mm ◎NEW XL・1414なごみ 間口1020mm×高さ2074mm	◎NEW 1608パーソナル 間口1065mm×高さ1905mm ◎NEW 0816パーソナル 間口765mm×高さ1905mm ◎NEW 0812パーソナル 間口765mm×高さ1905mm ◎NEW 1208パーソナル 間口945mm×高さ1905mm	
	機器取付用の梁・プレート等の設置	◎木造構造 荷重支持用四方梁 ◎コンクリート構造 乗場・レール固定用コンクリート壁 ◎鉄骨構造 乗場・レール固定用プレート		
	電源の準備	◎昇降路内への電源線の引込み工事 ◎工事用の仮設電源供給工事		
エレベーター工事後	電話線の準備	◎昇降路内への電話線の引込み・モジュラージャック取付工事		
	乗場ユニット取付後の仕上げ工事	◎壁・床仕上工事		
	鋼板製扉仕様の場合の壁仕上げ工事	◎乗場ユニット廻りの隙間を防火能力のある難燃材料でふさいでください。（竪穴区画対策）		

木造住宅標準施工図 3人乗り用（単位:mm）

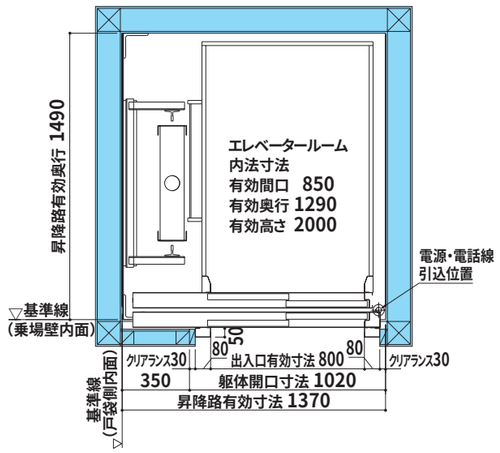
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

NEW XLクラシック　NEW XLなごみ

標準納まり

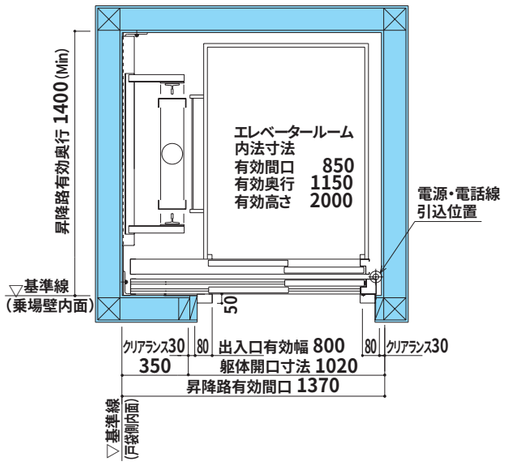


奥行寸法が納まらない場合

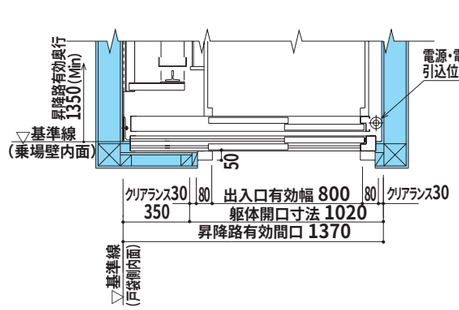


NEW 1414クラシック　NEW 1414なごみ

標準納まり

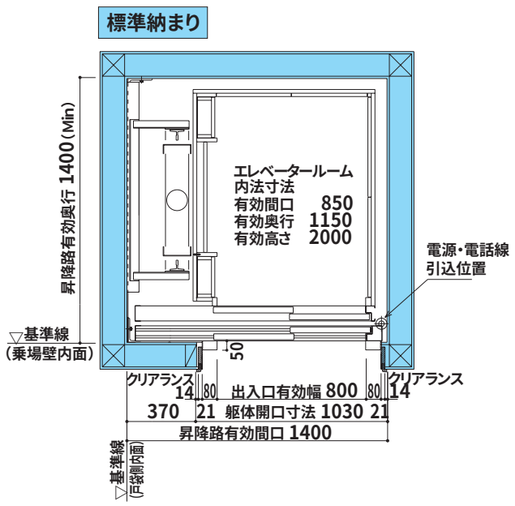


奥行寸法が納まらない場合



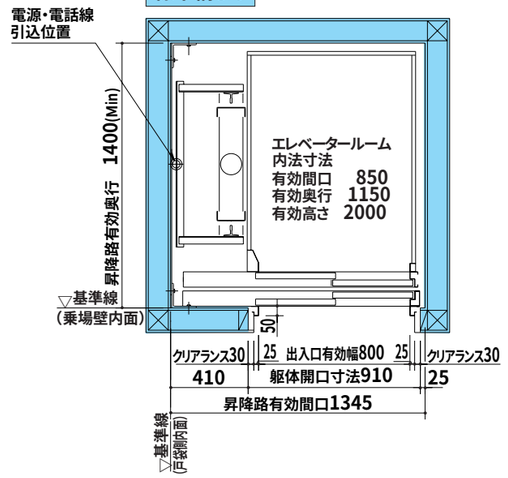
NEW グランド

標準納まり

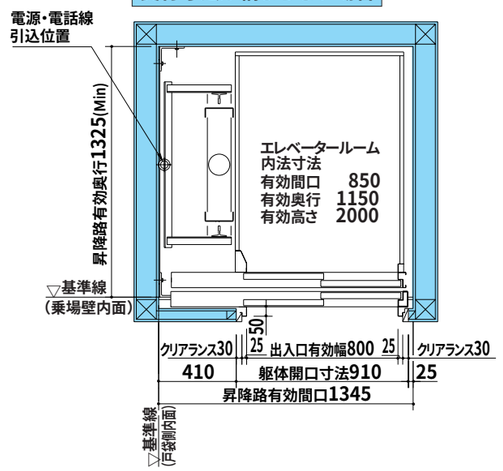


NEW 1414ジョイモダン

標準納まり



奥行寸法が納まらない場合



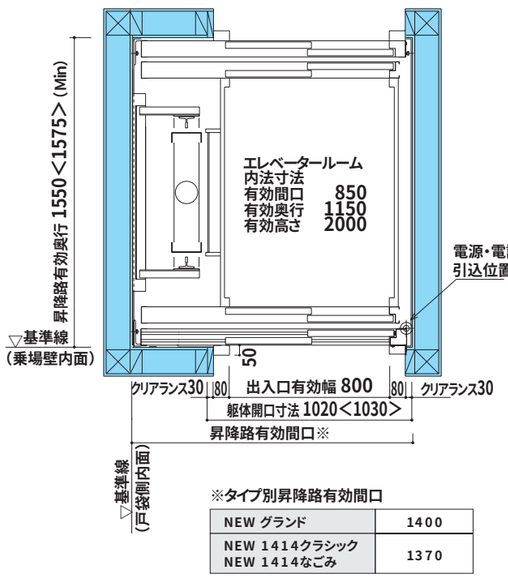
二方向出入口標準施工図

ご注意
- 開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。
- 昇降路内壁内貼り9mm以上としてください（石こうボード可）
- 外壁サイディングボード貼り可

木造住宅　NEW グランド　NEW 1414クラシック　NEW 1414なごみ　NEW XLクラシック　NEW XLなごみ

〈 〉寸法はNEW グランド

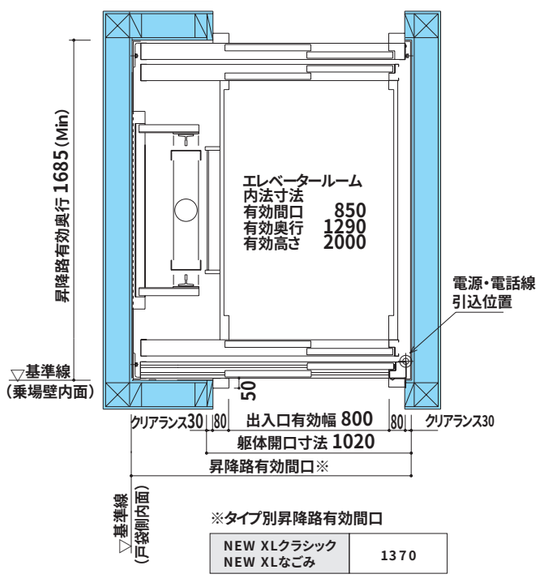
標準納まり



※タイプ別昇降路有効間口

NEW グランド	1400
NEW 1414クラシック NEW 1414なごみ	1370

標準納まり



※タイプ別昇降路有効間口

NEW XLクラシック NEW XLなごみ	1370

⊕は電源・電話線引込位置（戸当り側に引込ください）

EVに必要な電気工事

電源 ◎単相200V　30A　◎単相100V　20A
◎アース線D種（第三種）接地　・引込高さ　最下階FL＋1800mm～2300mm　・引込長さ 1500mm
◎電話機用配線　・引込高さ 最下階FL ＋0mm～300mm（ジョイモダンの場合 上階FL±200mm）・引込長さ 1500mm

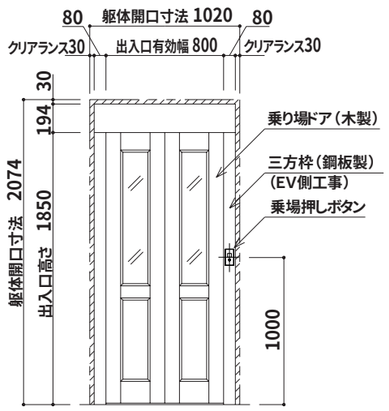
木造住宅標準施工図

木造住宅扉納まり図 3人乗り用（単位:mm）

※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

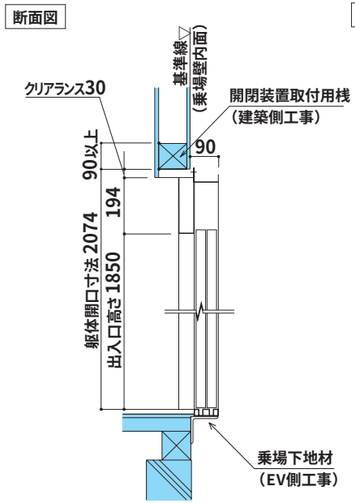
NEW XL・1414クラシック
NEW XL・1414なごみ

正面図



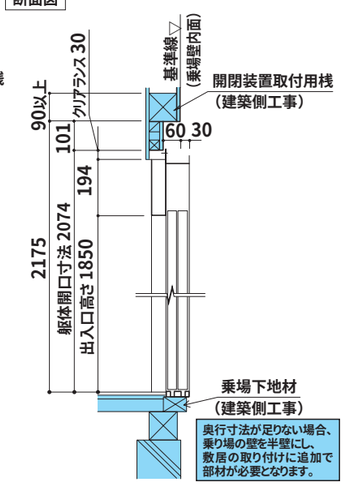
標準納まり

断面図



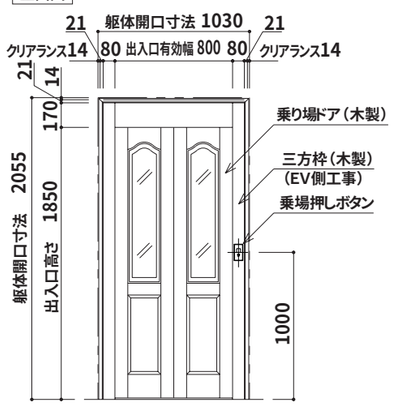
奥行寸法が納まらない場合

断面図



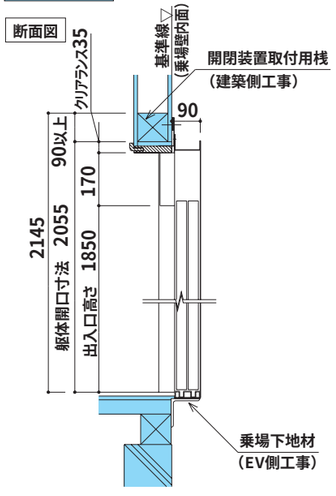
NEW グランド

正面図



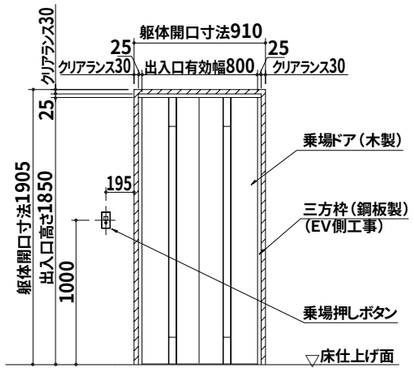
標準納まり

断面図



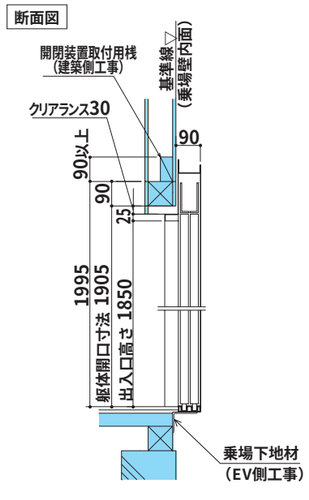
NEW 1414ジョイモダン

正面図



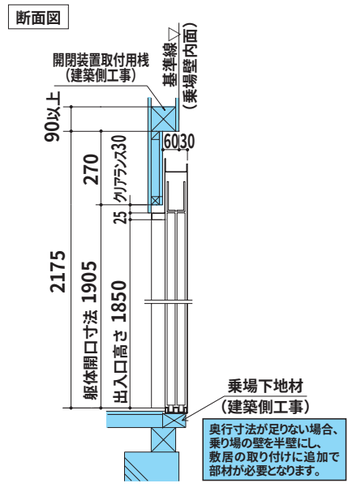
標準納まり

断面図



奥行寸法が納まらない場合

断面図

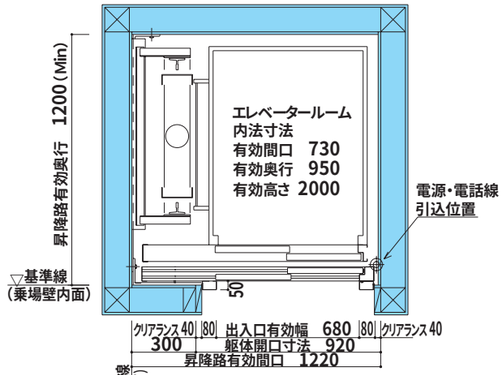


木造住宅標準施工図 2人乗り用（単位:mm）

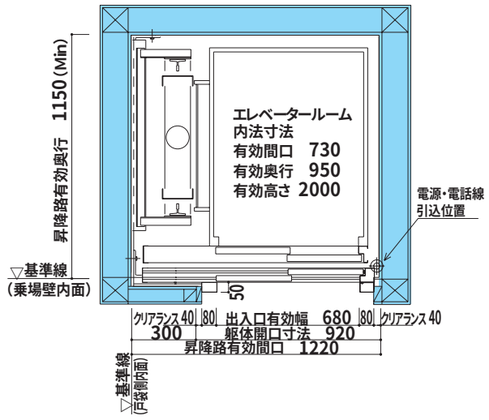
ご注意
- 開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。
- 昇降路内壁内貼り9mm以上としてください（石こうボード可）
- 外壁サイディングボード貼り可

NEW 1212クラシック

標準納まり

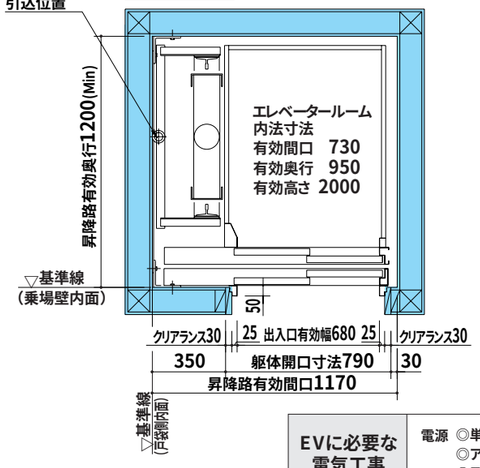


奥行寸法が納まらない場合

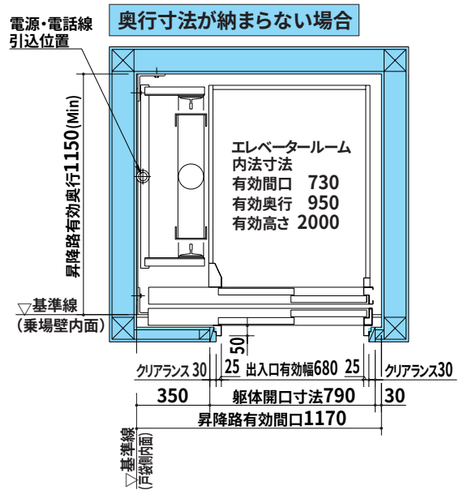


NEW 1212ジョイモダン

標準納まり



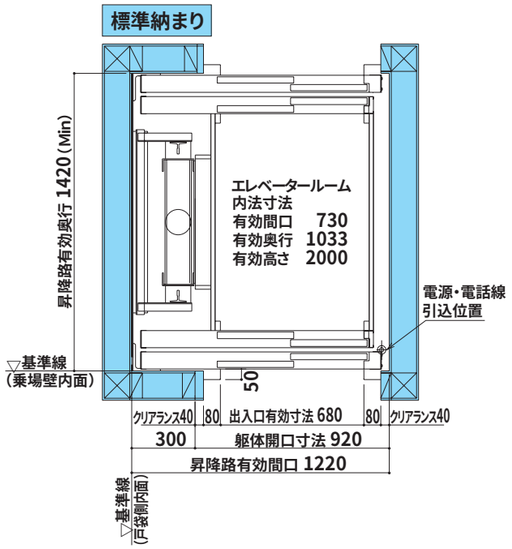
奥行寸法が納まらない場合



二方向出入口標準施工図

NEW 1212クラシック

標準納まり



◎は電源・電話線引込位置（戸当り側に引込ください）

EVに必要な電気工事

電源 ◎単相200V 30A ◎単相100V 20A
◎アース線D種（第三種）接地 ・引込高さ 最下階FL＋1800㎜～2300㎜ ・引込長さ 1500㎜
◎電話機用配線 ・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

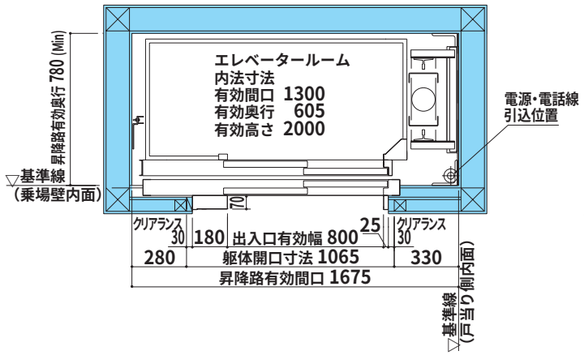
木造住宅標準施工図 2人乗り用（単位:mm）

※図は左開きの場合です。

ご注意
- 開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。
- 昇降路内壁内貼り9mm以上としてください（石こうボード可）
- 外壁サイディングボード貼り可

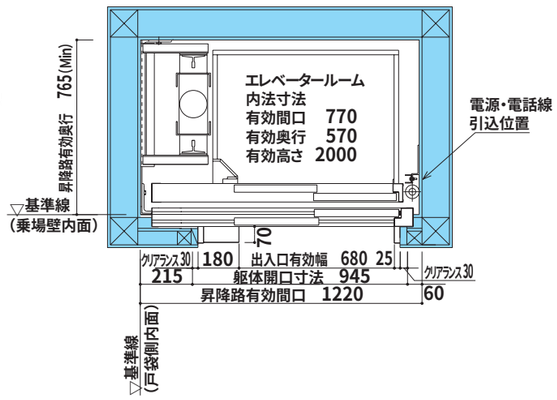
NEW 1608パーソナル （左開きのみ）

奥行寸法が納まらない場合



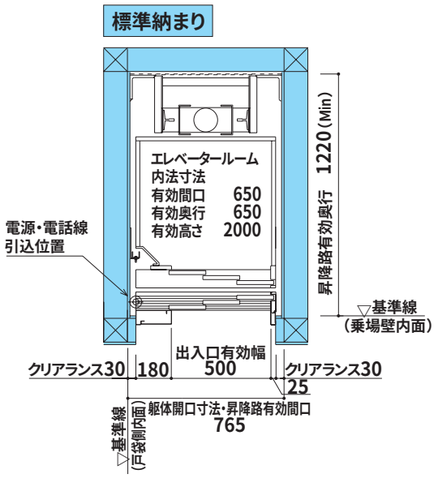
NEW 1208パーソナル （左開きのみ）

奥行寸法が納まらない場合



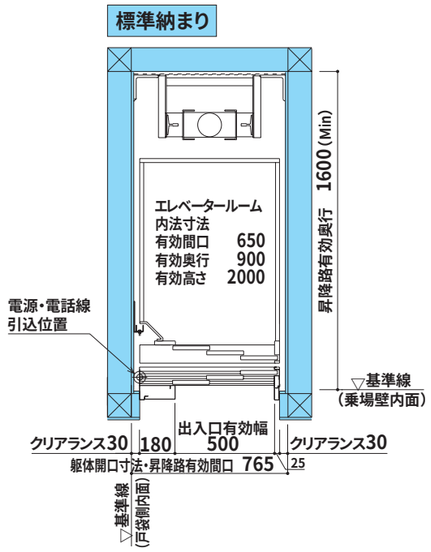
NEW 0812パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



NEW 0816パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



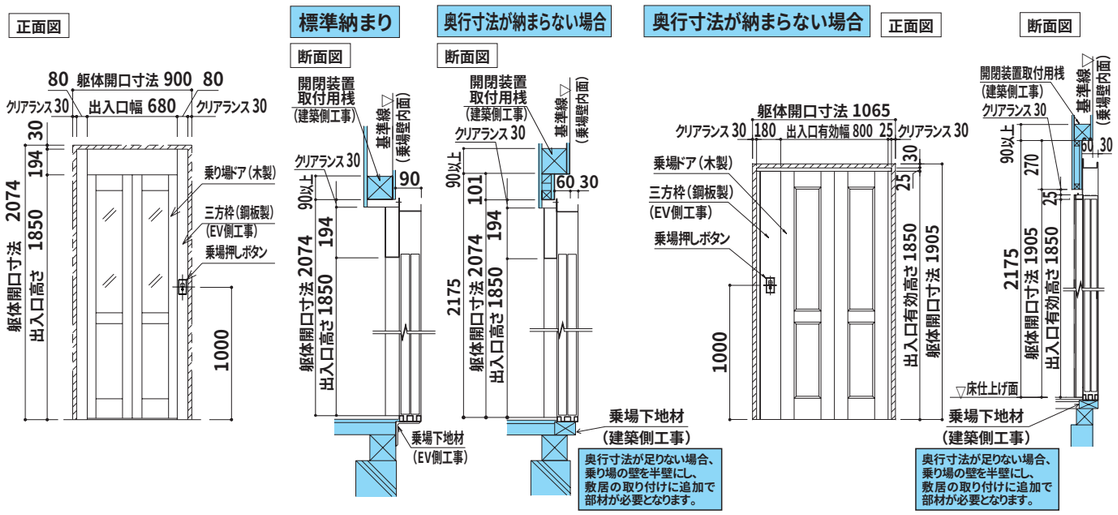
◎は電源・電話線引込位置（戸袋側に引込ください）

EVに必要な電気工事	◎単相200V 30A　◎単相100V 20A ◎アース線D種（第三種）接地 ・引込高さ 最下階FL＋1800mm～2300mm ・引込長さ 1500mm ◎電話機用配線 ・引込高さ 最下階FL ＋0mm～300mm（ジョイモダンの場合 上階FL±200mm）・引込長さ 1500mm

木造住宅扉納まり図 2人乗り用（単位:mm）

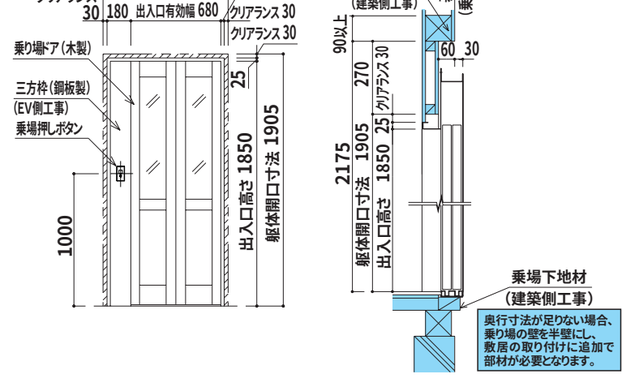
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

NEW 1212クラシック

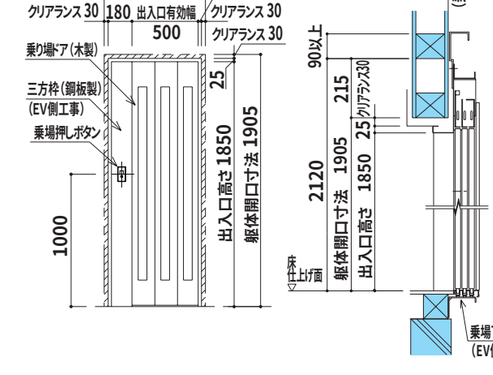


NEW 1608パーソナル

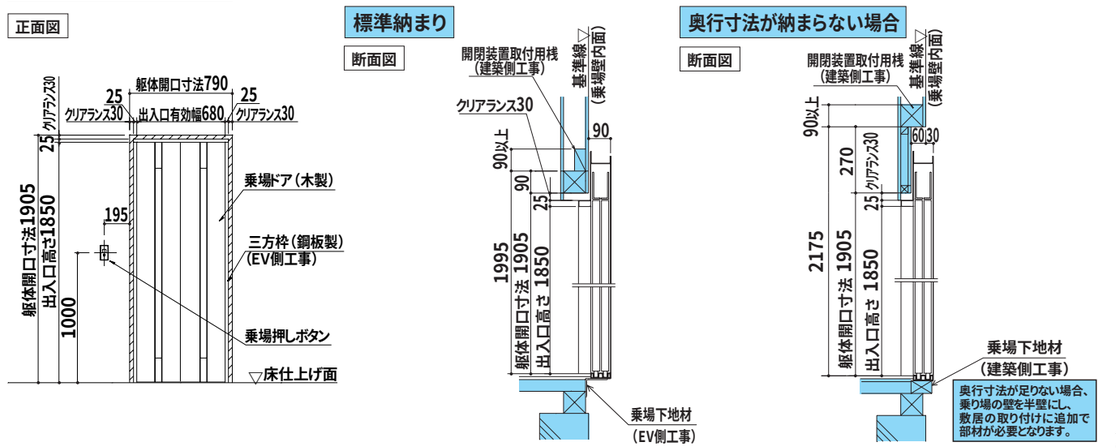
NEW 1208パーソナル



NEW 0812・0816パーソナル



NEW 1212ジョイモダン



木造住宅標準施工図（単位:mm）

木造住宅断面図

オーバーヘッド
最上停止階の床面から昇降路の頂部までの垂直距離をいい、この寸法が小さい程建築側の利点となります。

アドバイス
階高が3100mmを超える場合は、エレベーターのレールを継ぎ足すために、中間に梁が必要となります。梁の位置については、お打ち合わせをお願いします。

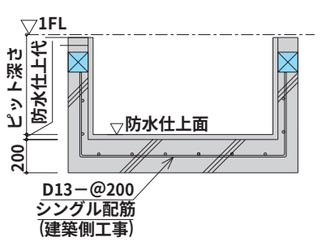
昇降行程
最下階の床面（FL）から最上階の床面（FL）までの垂直距離をいいます。油圧式は7.1mまでのメーカー規制があります。

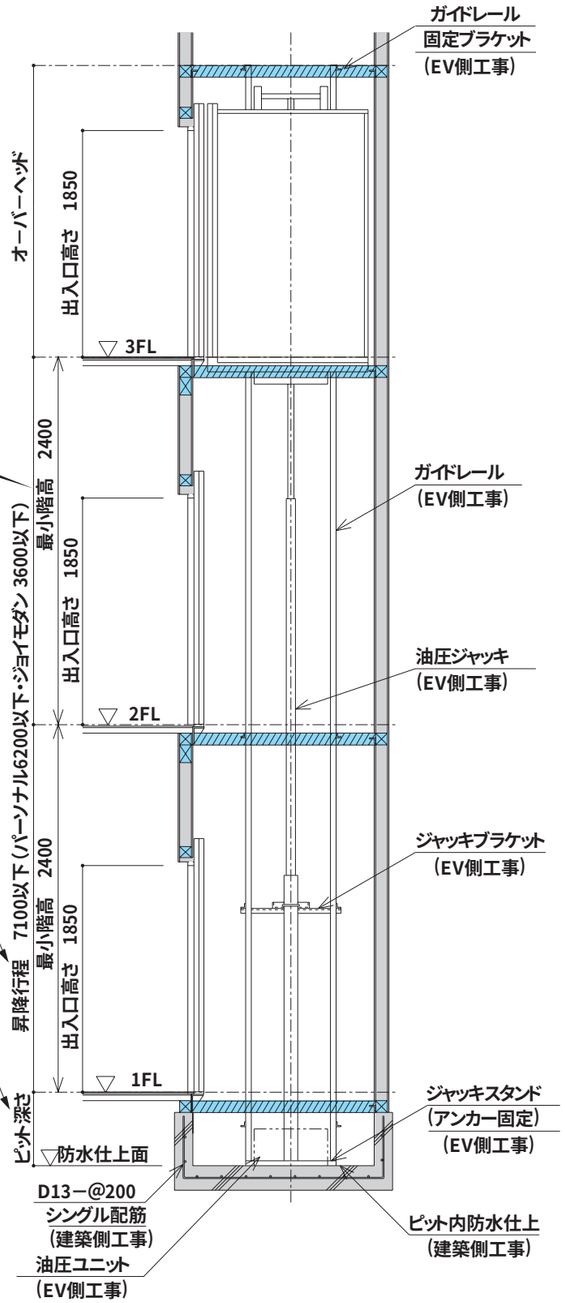
ピット
エレベーター昇降路の最下階床面から下の部分をいいます。

グランド・クラシック・パーソナル・なごみ		
昇降行程	ピット深さ	オーバーヘッド
7100以下	550以上	2750以上
6300以下		2450以上
4100以下		2400以上

※パーソナルは昇降行程6200以下

ジョイモダン		
昇降行程	ピット深さ	オーバーヘッド
3600以下	450以上	2350以上

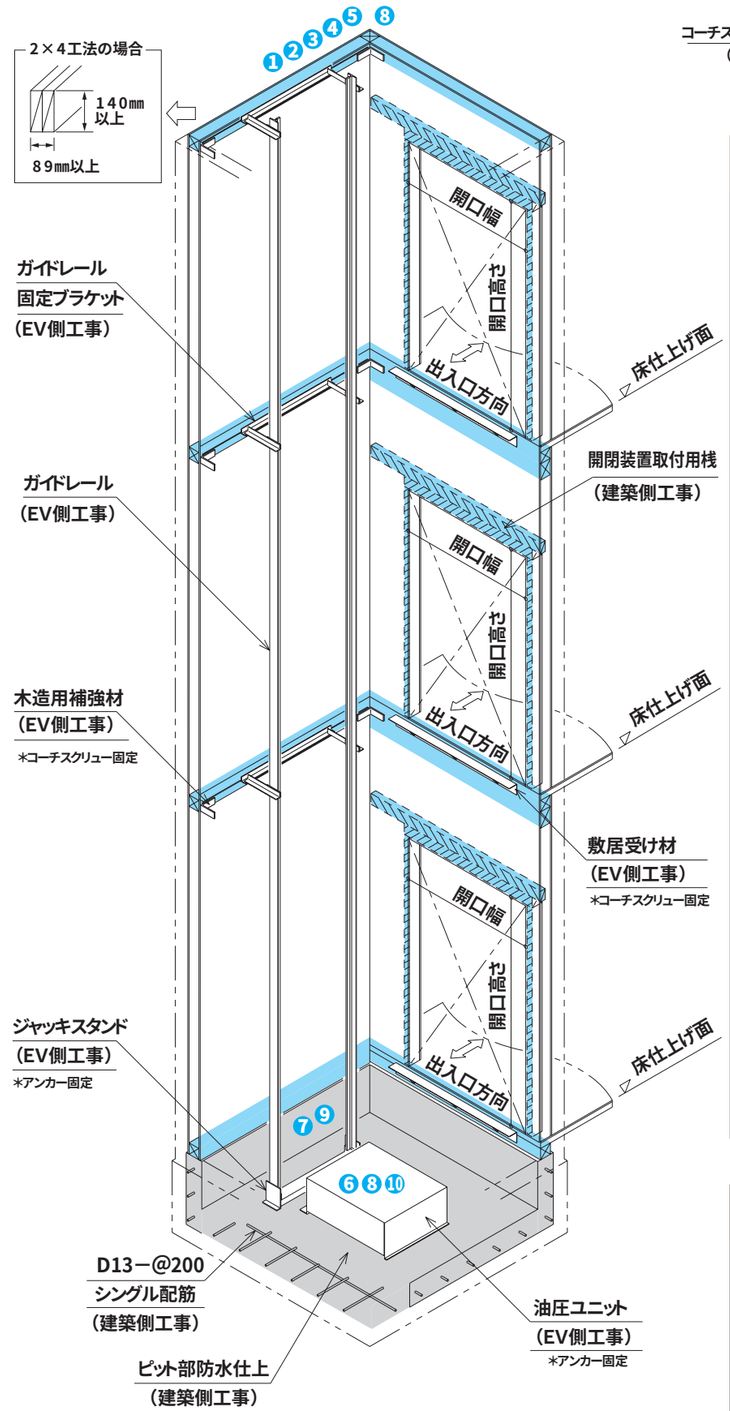


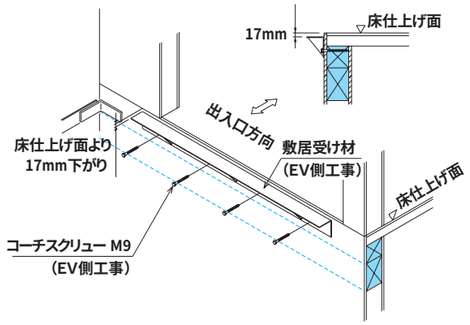


※二方向出入口（オプション）の場合、エレベーターが2停止以上で2400mm以上の昇降距離が必要です。

※ ■ 部分
建築側工事

※開口幅、開口高さは扉納まり図を参照してください。





⚠ ご注意

昇降路

1. 壁はすき間がないように仕上げてください。天井も貼ってください。
2. 昇降路内にエレベーターに関係のない配管、配線を設けることは禁止されています。
3. 昇降路を囲む梁は、エレベーター側にて補強しますので、金具、火打梁等の突起物のないように施工してください。
4. 各階の床下及び天井部分には、昇降路4方に必ず大梁（105□以上）を入れてください。（2×4工法の場合は、89mm以上×140mm以上）
5. ボルト等が出る場合、ザグリ処理を施してください。

ピット

6. 床はシングル配筋で、200mm以上のコンクリート仕上げとします。（約1200kgfの荷重が掛かります）
7. 布基礎には通風孔を設けないでください。
8. ピット及びオーバーヘッド寸法を変更する場合、ピット部分に基礎梁等が出る場合はご相談ください。
9. ピット部に通気孔を設けないでください。
10. ピット内に湧水の恐れがある場合は防水仕上げをしてください。その場合防水仕上げ面にて、昇降路開口・奥行・ピット深さの有効寸法を確保してください。

⚠ 警　告

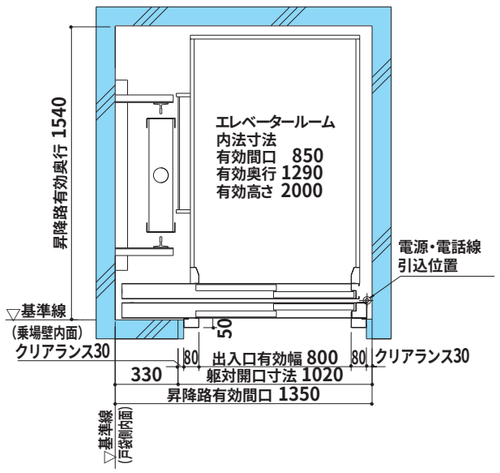
コンクリート設計基準強度は1764N/cm²（180kg/cm²）以上でP13の荷重に耐える構造としてください。（厚さ200mm以上のシングル配筋のRC床としてください。）

コンクリート住宅標準施工図 3人乗り用（単位:mm）

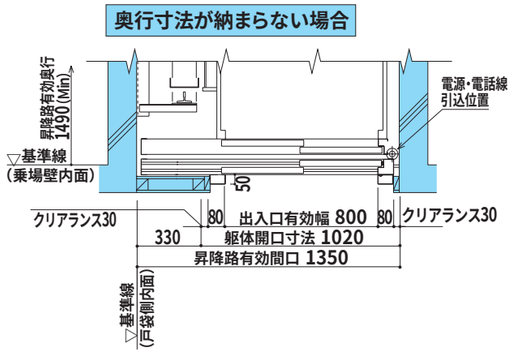
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

NEW XLクラシック　NEW XLなごみ

標準納まり

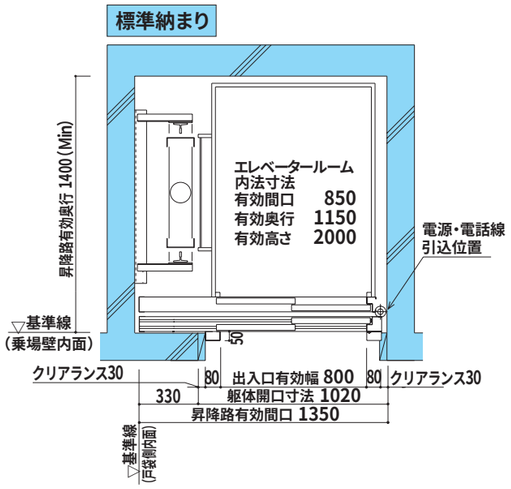


奥行寸法が納まらない場合

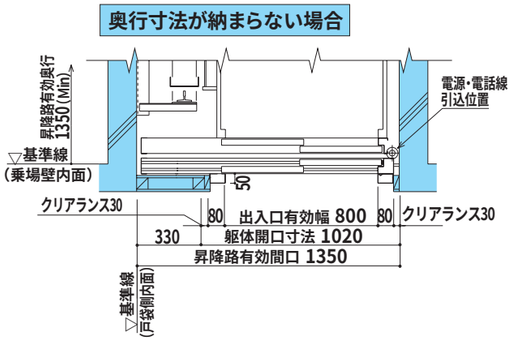


NEW 1414クラシック　NEW 1414なごみ

標準納まり

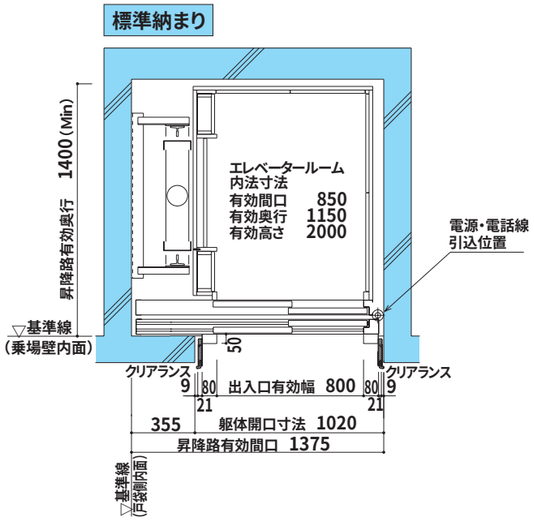


奥行寸法が納まらない場合



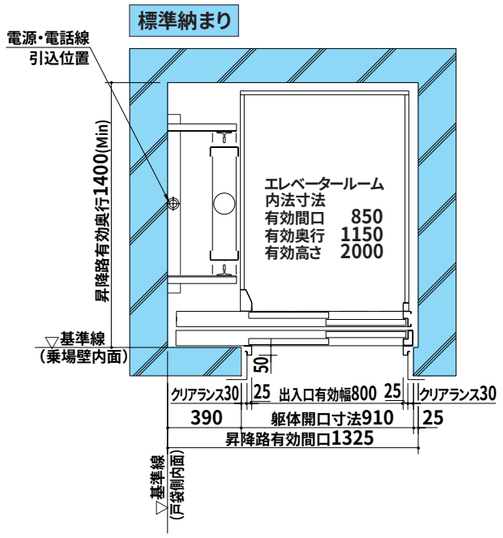
NEW グランド

標準納まり

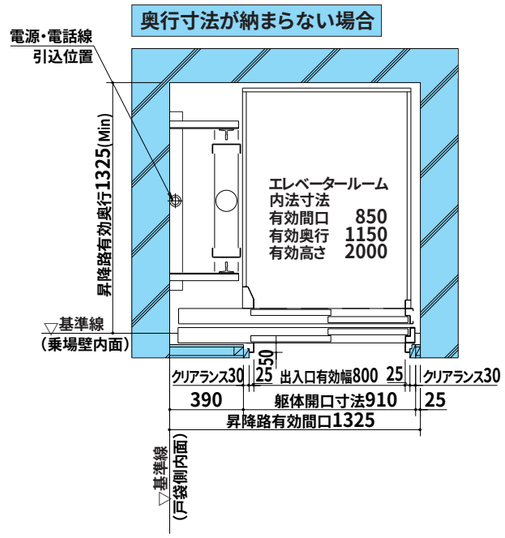


NEW 1414ジョイモダン

標準納まり



奥行寸法が納まらない場合



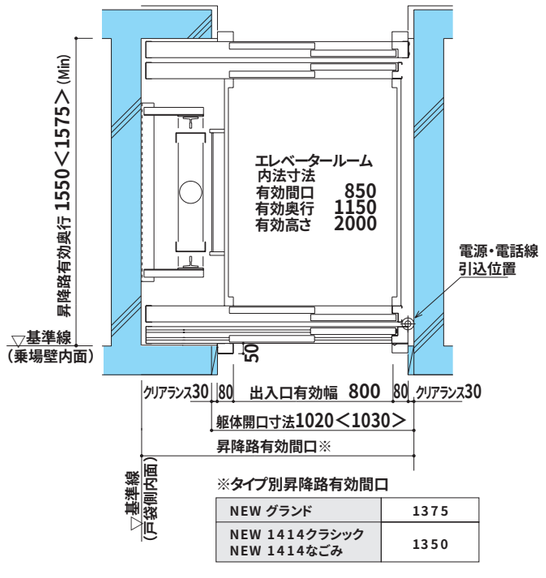
二方向出入口標準施工図

ご注意　・開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。

コンクリート住宅　NEW グランド　NEW 1414クラシック　NEW 1414なごみ

〈　〉寸法はNEW グランド

標準納まり

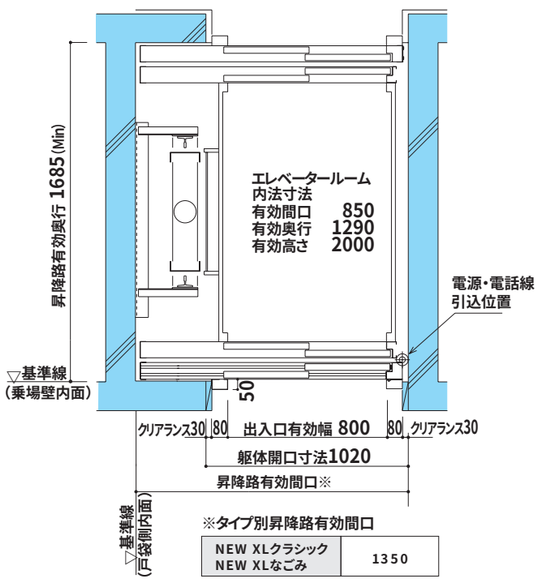


※タイプ別昇降路有効間口

NEW グランド	1375
NEW 1414クラシック NEW 1414なごみ	1350

NEW XLクラシック　NEW XLなごみ

標準納まり



※タイプ別昇降路有効間口

NEW XLクラシック NEW XLなごみ	1350

⊕は電源・電話線引込位置（戸当り側に引込ください）

EVに必要な電気工事

電源　◎単相200V　30A　　◎単相100V　20A
◎アース線D種（第三種）接地　・引込高さ　最下階FL＋1800㎜～2300㎜　・引込長さ 1500㎜
◎電話機用配線　・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

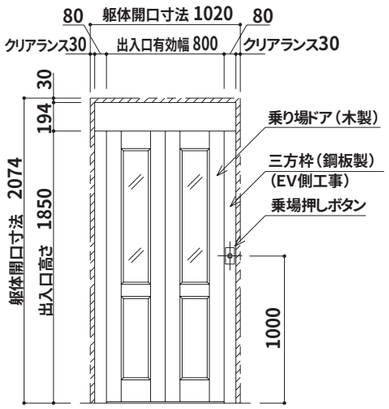
コンクリート住宅扉納まり図 3人乗り用（単位:mm）

※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

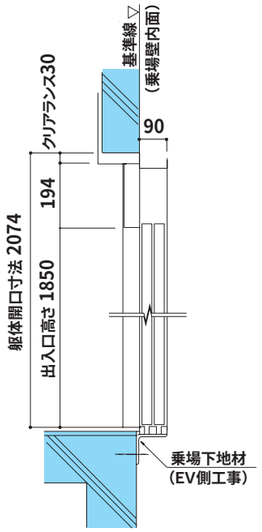
NEW XL・1414クラシック
NEW XL・1414なごみ

標準納まり

正面図



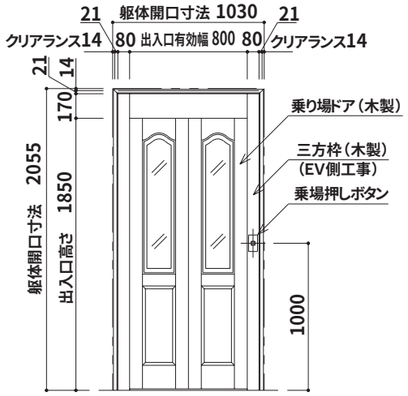
断面図



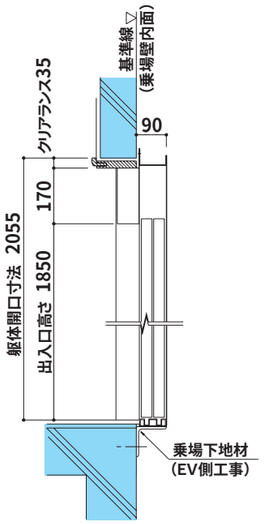
NEW グランド

標準納まり

正面図



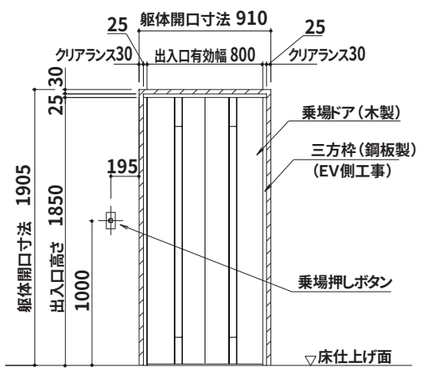
断面図



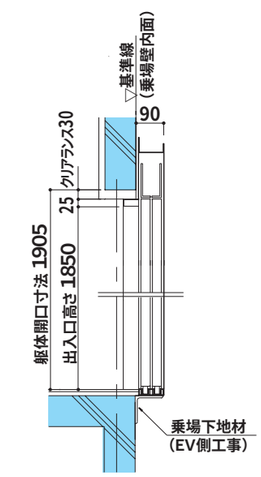
NEW 1414ジョイモダン

標準納まり

正面図



断面図



コンクリート住宅標準施工図 2人乗り用（単位:mm）

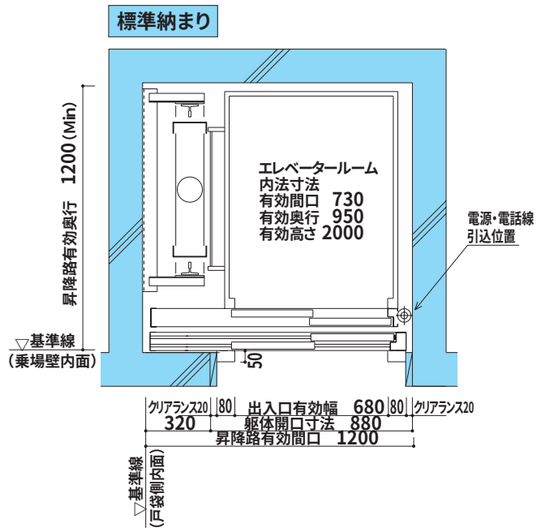
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

ご注意
・開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。

二方向出入口標準施工図

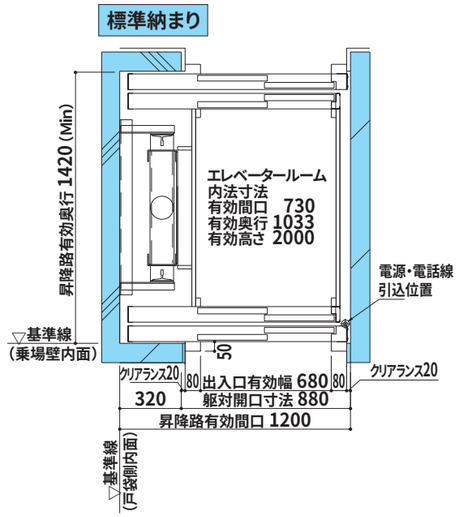
NEW 1212クラシック

標準納まり



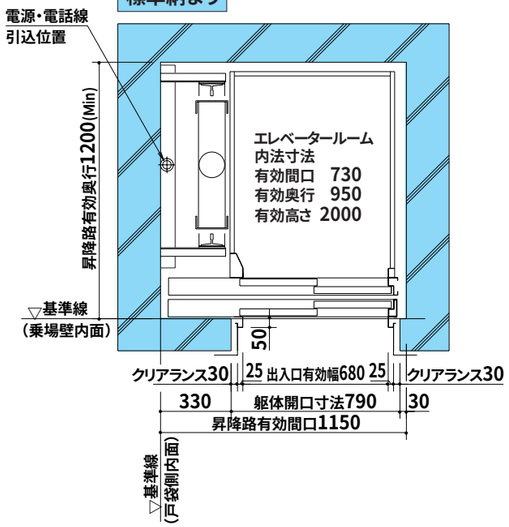
NEW 1212クラシック

標準納まり

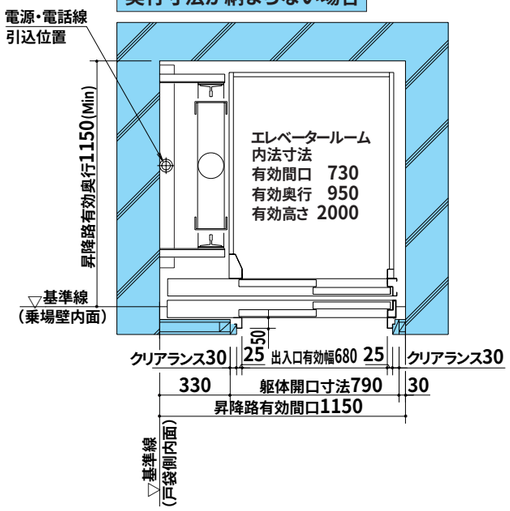


NEW 1212ジョイモダン

標準納まり



奥行寸法が納まらない場合



◎は電源・電話線引込位置（戸当り側に引込ください）

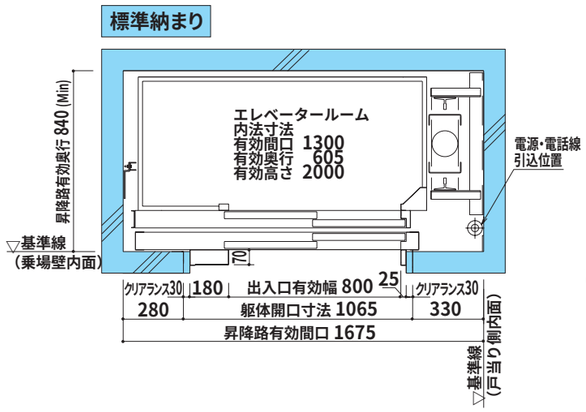
EVに必要な電気工事	電源 ◎単相200V 30A ◎単相100V 20A ◎アース線D種（第三種）接地 ・引込高さ 最下階FL＋1800㎜～2300㎜ ・引込長さ 1500㎜ ◎電話機用配線 ・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

コンクリート住宅標準施工図 2人乗り用（単位:mm）

※図は左開きの場合です。

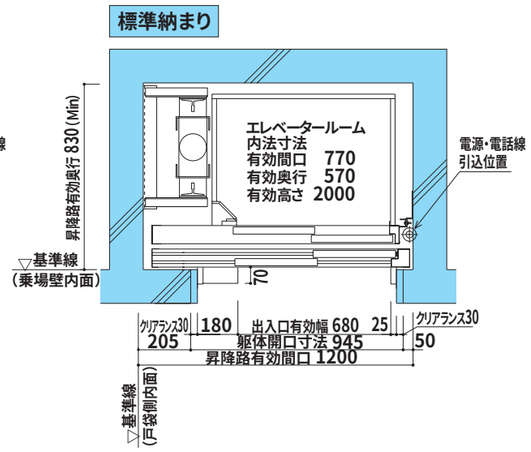
NEW 1608パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



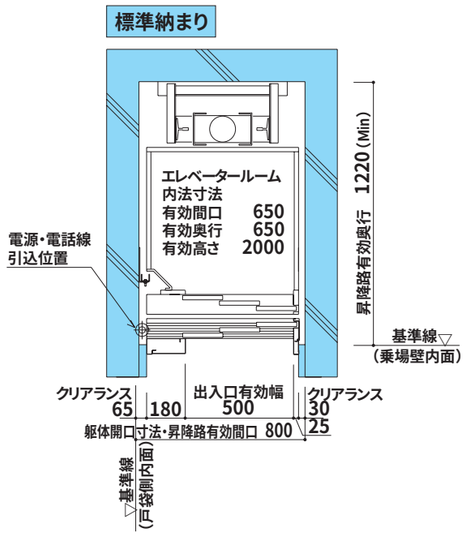
NEW 1208パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



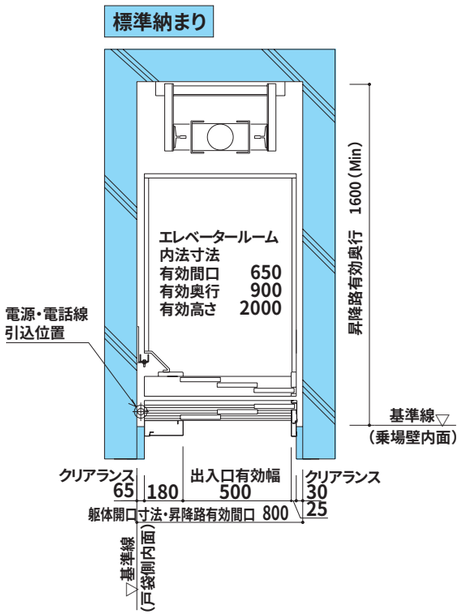
NEW 0812パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



NEW 0816パーソナル （左開きのみ）

標準納まり

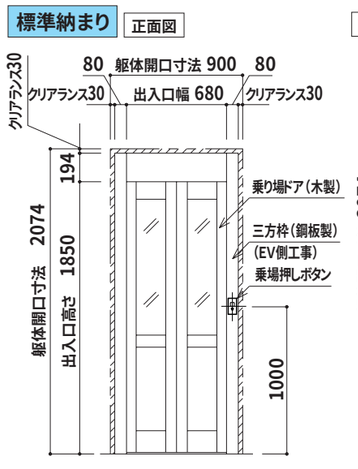


コンクリート住宅扉納まり図 2人乗り用（単位:mm）

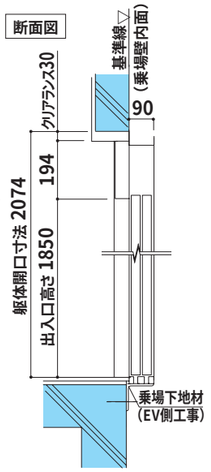
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

NEW 1212クラシック

標準納まり 正面図

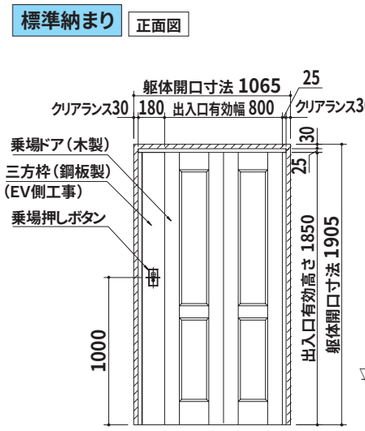


断面図

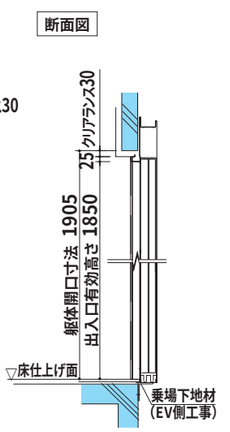


NEW 1608パーソナル

標準納まり 正面図

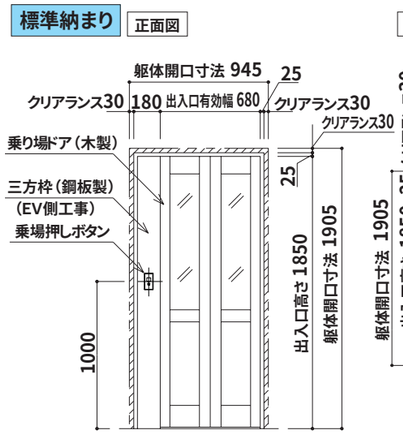


断面図

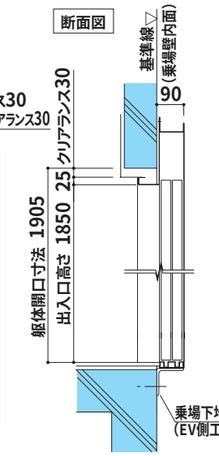


NEW 1208パーソナル

標準納まり 正面図

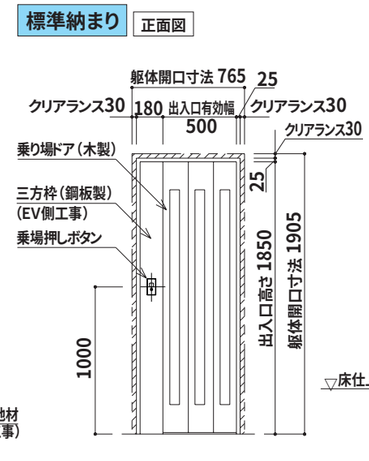


断面図

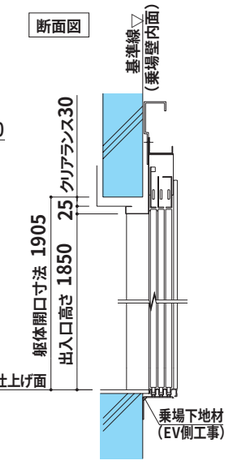


NEW 0812・0816パーソナル

標準納まり 正面図

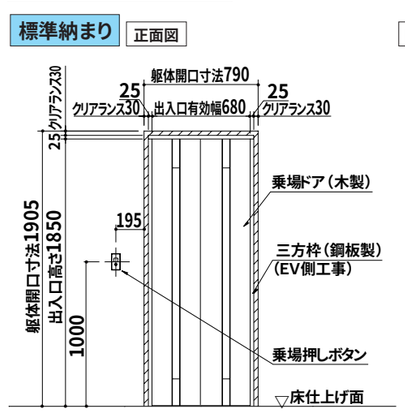


断面図

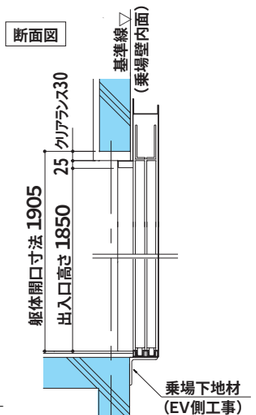


NEW 1212ジョイモダン

標準納まり 正面図



断面図



コンクリート住宅標準施工図（単位:㎜）

コンクリート住宅断面図

オーバーヘッド
最上停止階の床面から昇降路の頂部までの垂直距離をいい、この寸法が小さい程建築側の利点となります。

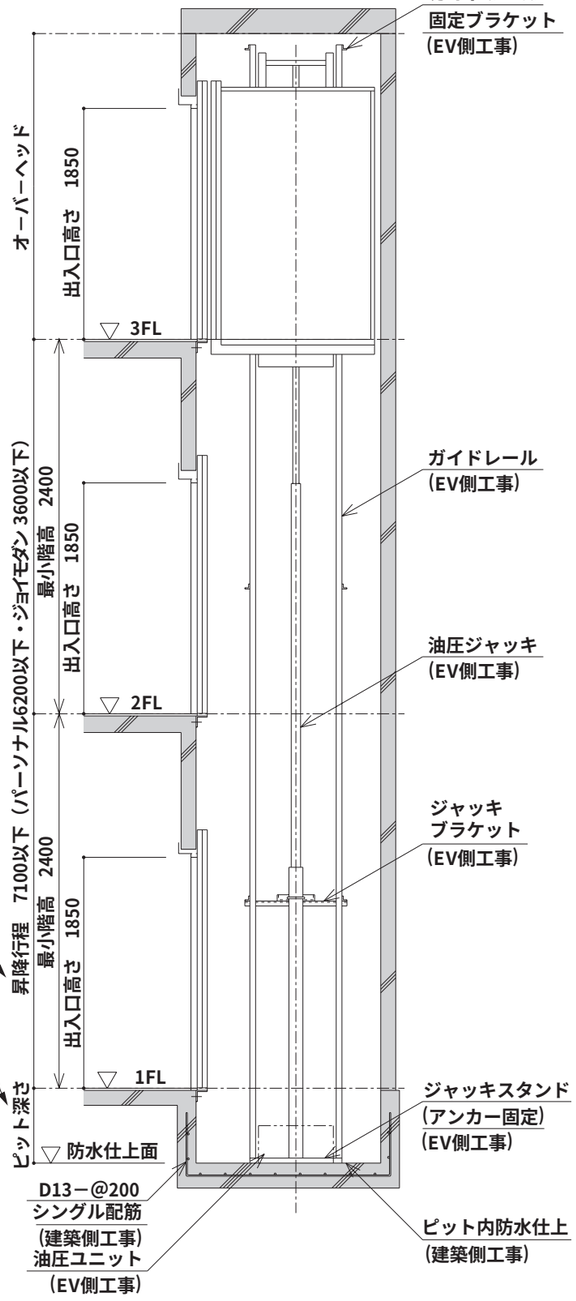
昇降行程
最下階の床面（FL）から最上階の床面（FL）までの垂直距離をいいます。油圧式は7.1mまでのメーカー規制があります。

ピット
エレベーター昇降路の最下階床面から下の部分をいいます。

グランド・クラシック・パーソナル・なごみ		
昇降行程	ピット深さ	オーバーヘッド
7100以下	550以上	2750以上
6300以下		2450以上
4100以下		2400以上

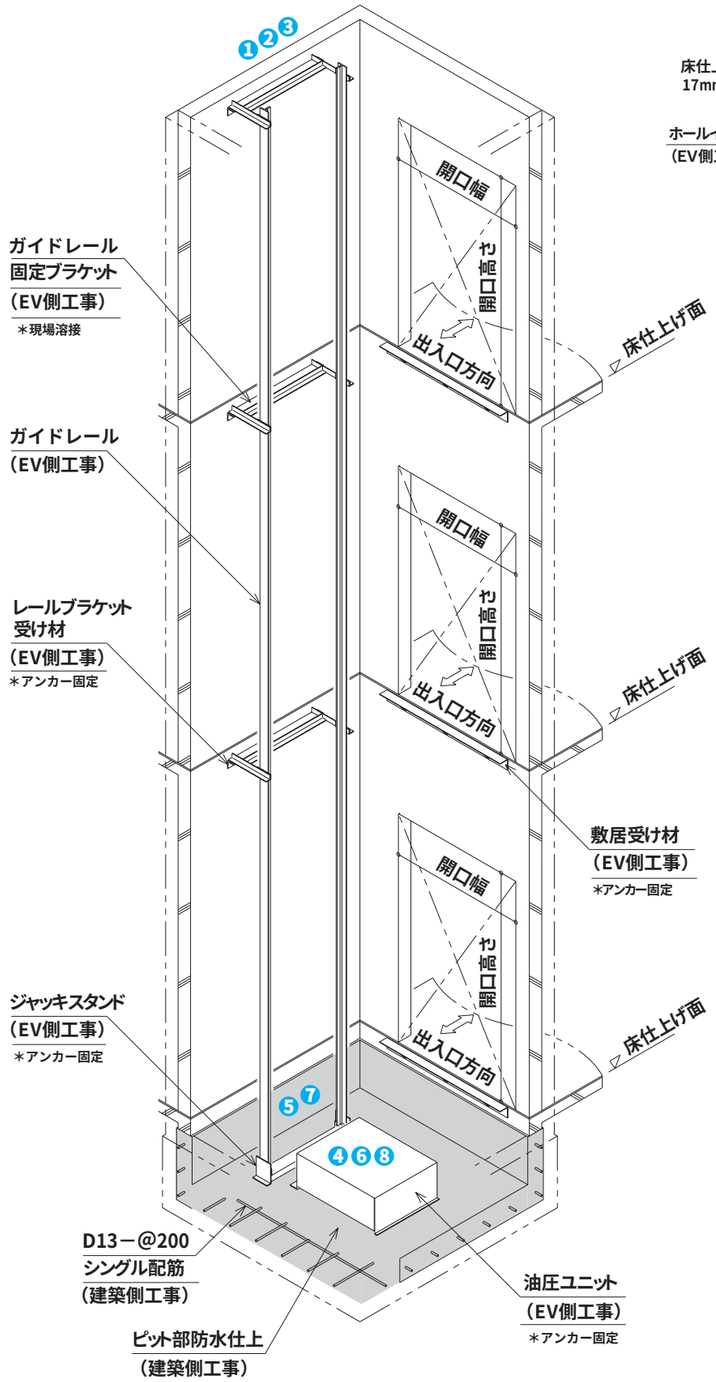
※パーソナルは昇降行程6200以下

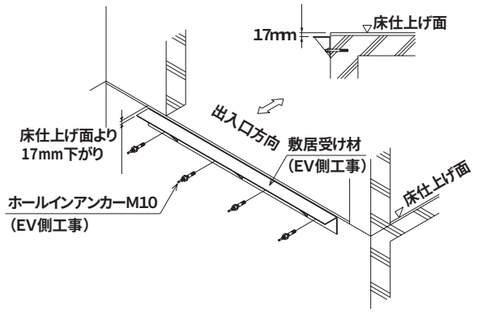
ジョイモダン		
昇降行程	ピット深さ	オーバーヘッド
3600以下	450以上	2350以上



※二方向出入口（オプション）の場合、エレベーターが2停止以上で2400mm以上の昇降距離が必要です。

※開口幅、開口高さは扉納まり図を参照してください。





⚠ ご 注 意

昇降路

1. 壁はすき間がないように仕上げてください。天井も貼ってください。
2. 昇降路内にエレベーターに関係のない配管、配線を設けることは禁止されています。
3. ボルト等が出る場合、ザグリ処理を施してください。

ピット

4. 床はシングル配筋で、200㎜以上のコンクリート仕上げとします。（約1200kgfの荷重が掛かります）
5. 布基礎には通風孔を設けないでください。
6. ピット及びオーバーヘッド寸法を変更する場合、ピット部分に基礎梁等が出る場合はご相談ください。
7. ピット部に通気孔を設けないでください。
8. ピット内に湧水の恐れがある場合は防水仕上げをしてください。その場合防水仕上げ面にて、昇降路開口・奥行・ピット深さの有効寸法を確保してください。

⚠ 警　告

コンクリート設計基準強度は1764N/cm²（180kg/cm²）以上でP13の荷重に耐える構造としてください。（厚さ200mm以上のシングル配筋のRC床としてください。）

鉄骨住宅標準施工図 3人乗り用（単位:mm）

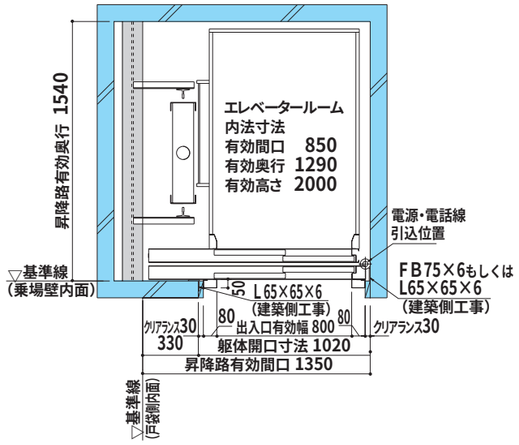
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

〈昇降路内に梁がある場合〉

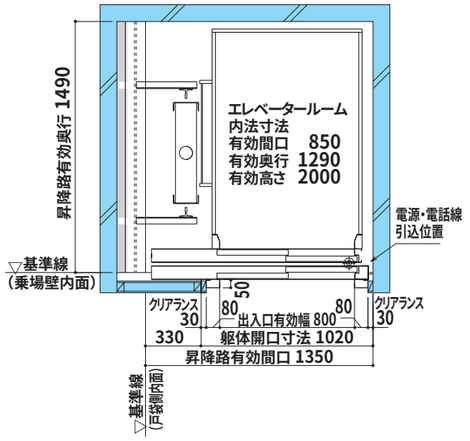
NEW XLクラシック **NEW XLなごみ**

ご注意
・開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。

標準納まり

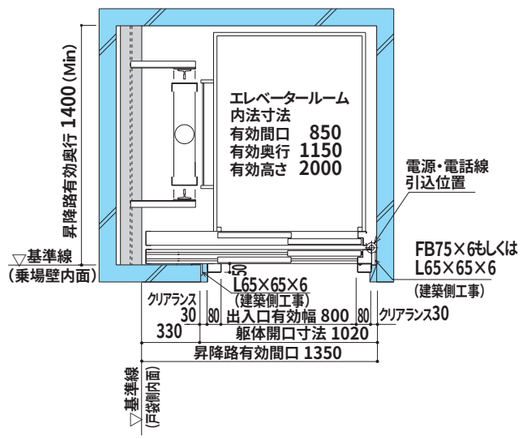


奥行寸法が納まらない場合

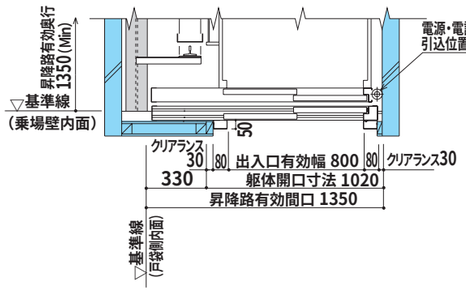


NEW 1414クラシック **NEW 1414なごみ**

標準納まり

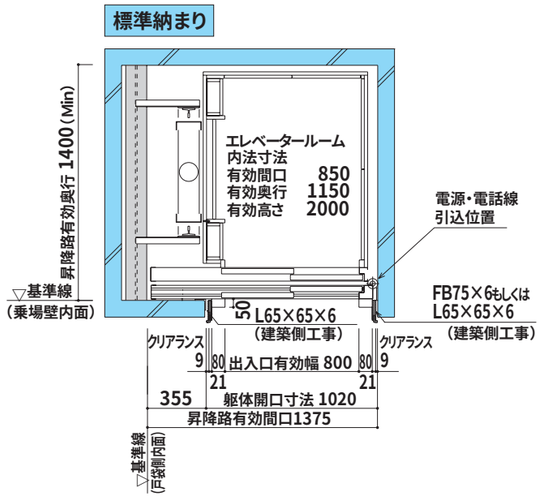


奥行寸法が納まらない場合



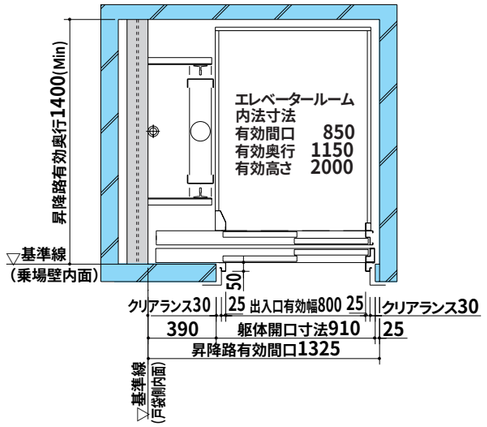
NEW グランド

標準納まり

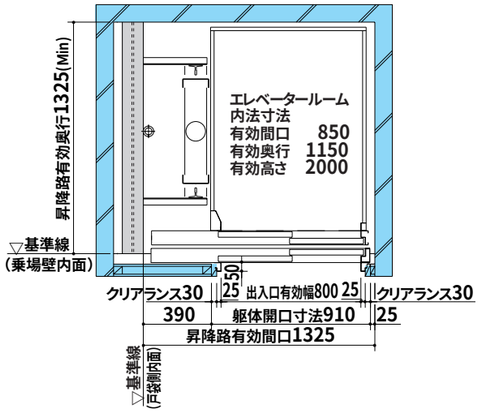


NEW 1414ジョイモダン

標準納まり



奥行寸法が納まらない場合



二方向出入口標準施工図

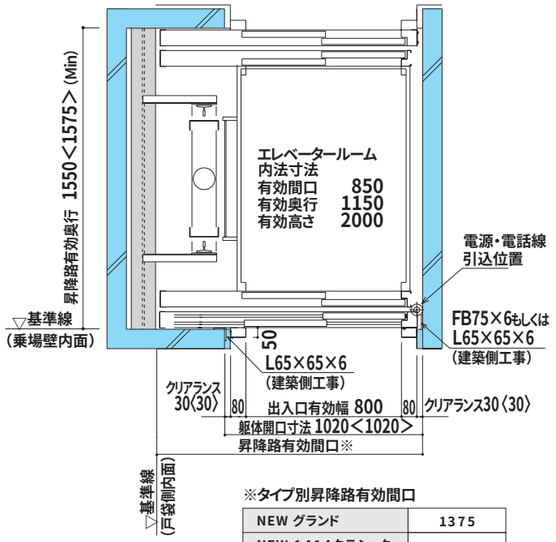
鉄骨住宅 〈昇降路内に梁がある場合〉

NEW グランド **NEW 1414クラシック** **NEW 1414なごみ**

〈 〉寸法はNEW グランド

NEW XLクラシック **NEW XLなごみ**

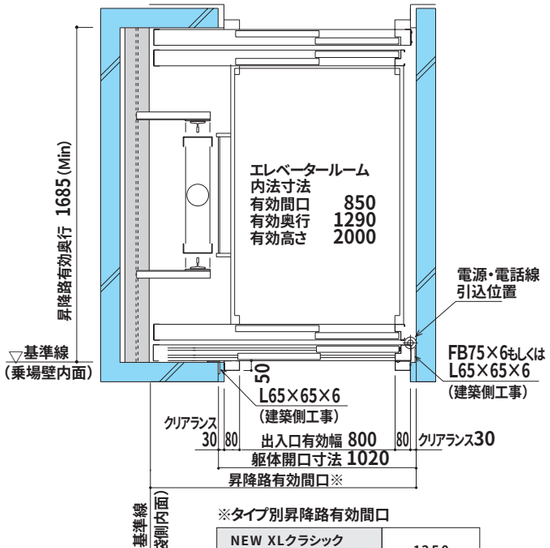
標準納まり



※タイプ別昇降路有効間口

NEW グランド	1375
NEW 1414クラシック NEW 1414なごみ	1350

標準納まり



※タイプ別昇降路有効間口

NEW XLクラシック NEW XLなごみ	1350

⊕は電源・電話線引込位置（戸当り側に引込ください）

EVに必要な電気工事

電源 ◎単相200V 30A ◎単相100V 20A
◎アース線D種（第三種）接地 ・引込高さ 最下階FL＋1800㎜～2300㎜ ・引込長さ 1500㎜
◎電話機用配線 ・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

鉄骨住宅標準施工図 3人乗り用（単位:mm）

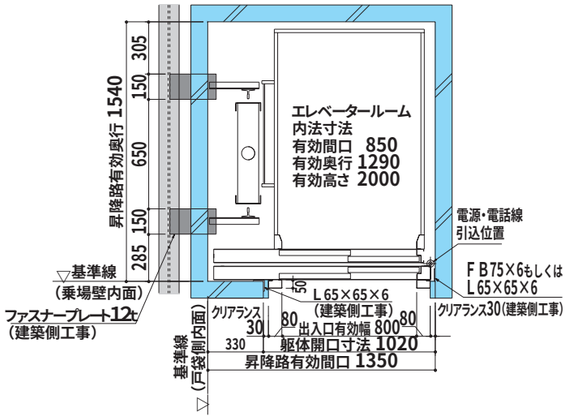
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

〈昇降路内に梁がない場合〉

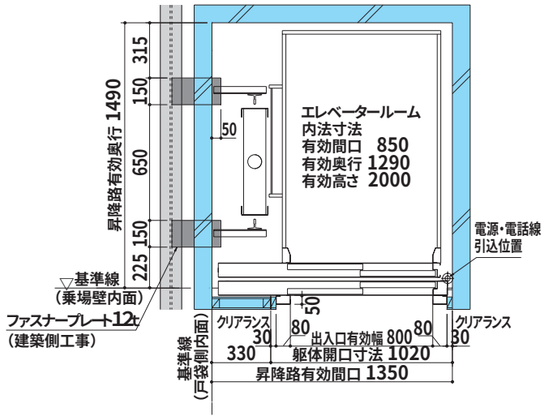
NEW XLクラシック **NEW XLなごみ**

ご注意 ・開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。

標準納まり

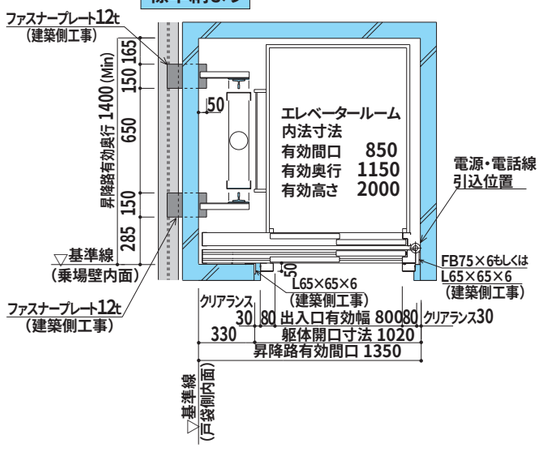


奥行寸法が納まらない場合

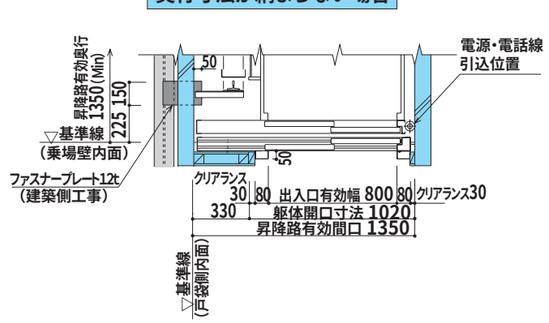


NEW 1414クラシック **NEW 1414なごみ**

標準納まり

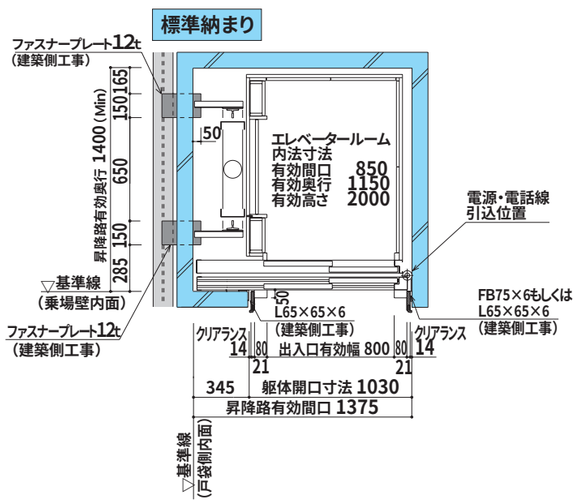


奥行寸法が納まらない場合



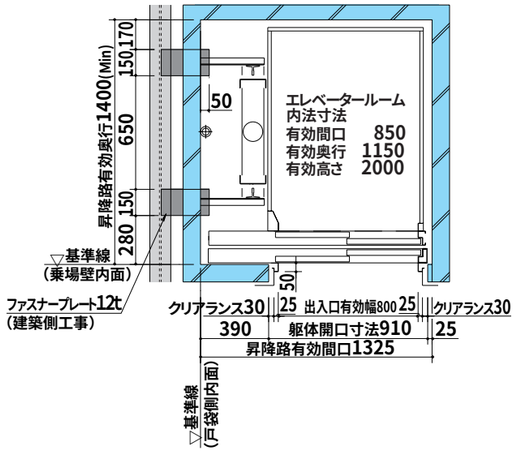
NEW グランド

標準納まり

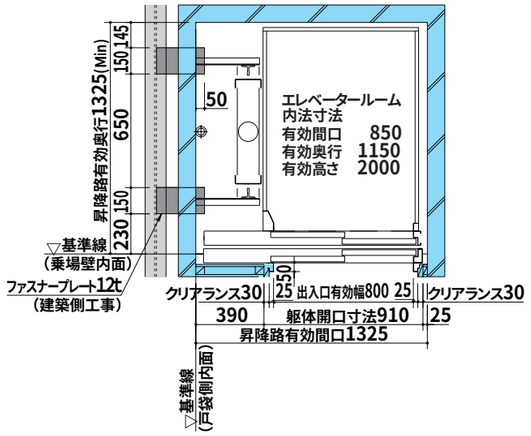


NEW 1414ジョイモダン

標準納まり



奥行寸法が納まらない場合



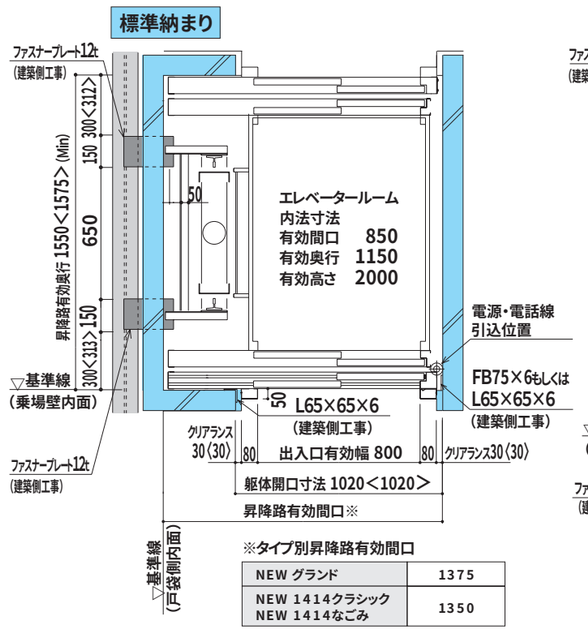
二方向出入口標準施工図

鉄骨住宅 〈昇降路内に梁がない場合〉

NEW グランド **NEW 1414クラシック** **NEW 1414なごみ**

〈 〉寸法はNEW グランド

標準納まり

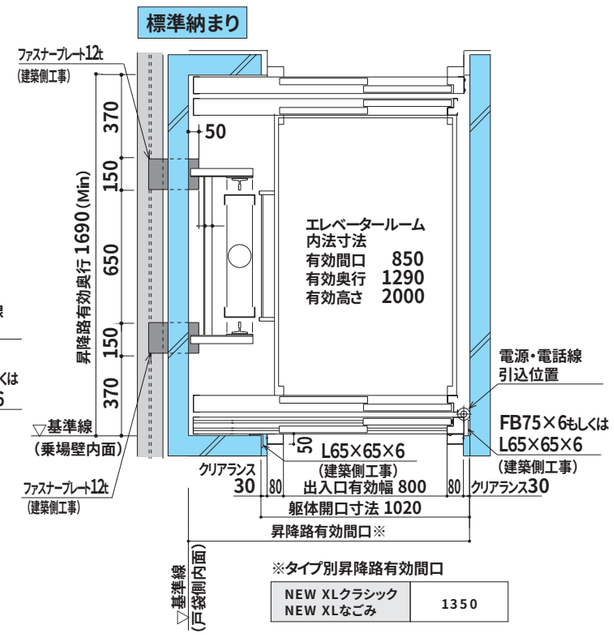


※タイプ別昇降路有効間口

NEW グランド	1375
NEW 1414クラシック NEW 1414なごみ	1350

NEW XLクラシック **NEW XLなごみ**

標準納まり



※タイプ別昇降路有効間口

NEW XLクラシック NEW XLなごみ	1350

⊕は電源・電話線引込位置（戸当り側に引込ください）

EVに必要な電気工事

電源 ◎単相200V 30A ◎単相100V 20A
◎アース線D種（第三種）接地 ・引込高さ 最下階FL＋1800㎜～2300㎜ ・引込長さ 1500㎜
◎電話機用配線 ・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

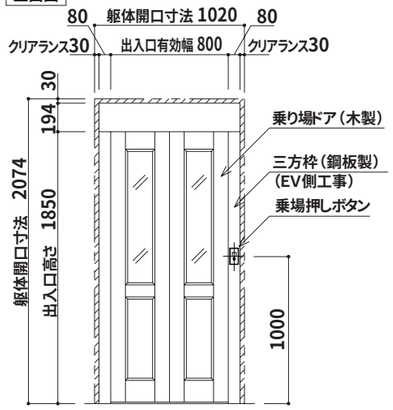
鉄骨住宅扉納まり図 3人乗り用（単位:mm）

※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

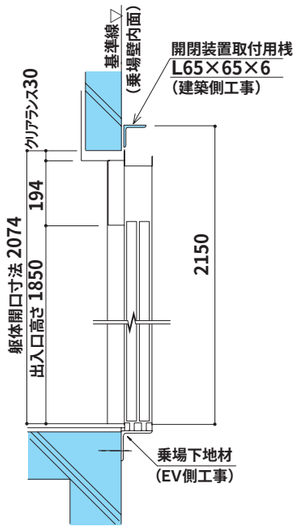
NEW XL・1414クラシック / NEW XL・1414なごみ

標準納まり

正面図



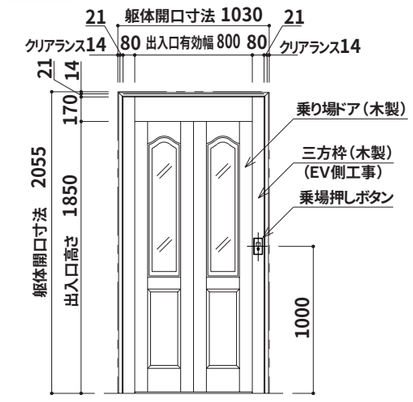
断面図



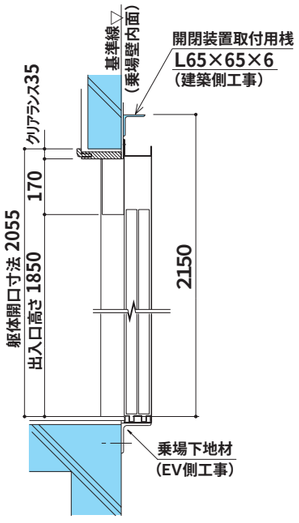
NEW グランド

標準納まり

正面図



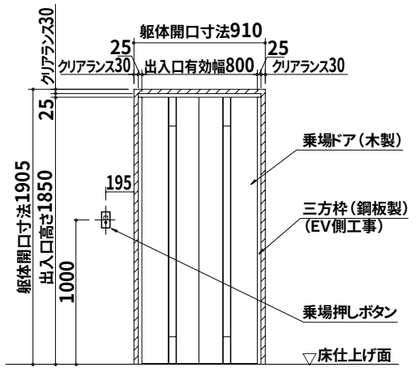
断面図



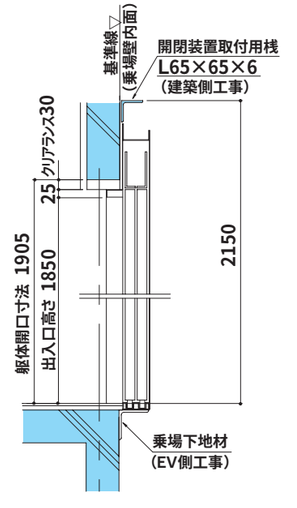
NEW 1414ジョイモダン

標準納まり

正面図



断面図



鉄骨住宅標準施工図 2人乗り用（単位:mm）

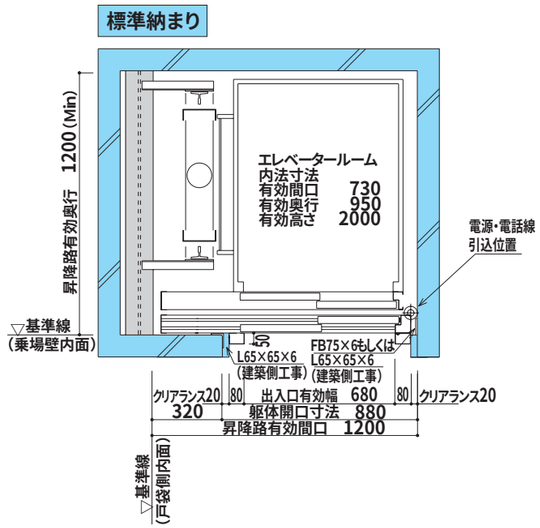
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

ご注意 ・開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。

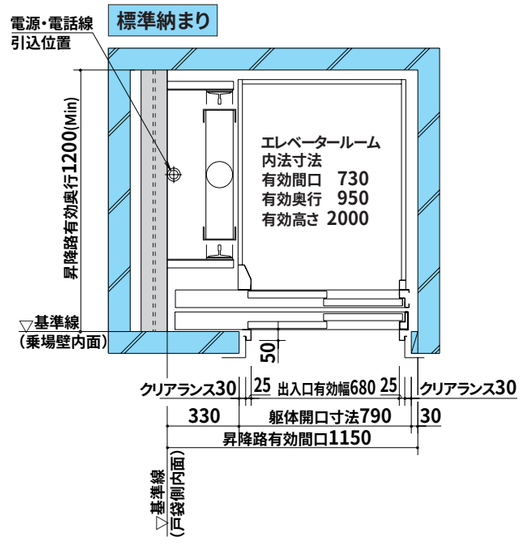
〈昇降路内に梁がある場合〉

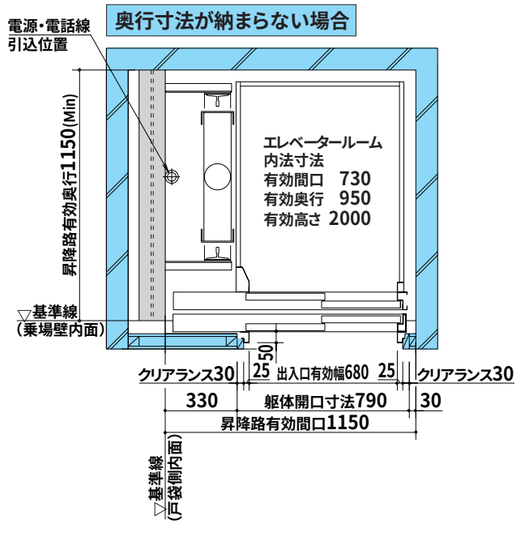
NEW 1212クラシック

標準納まり



NEW 1212ジョイモダン

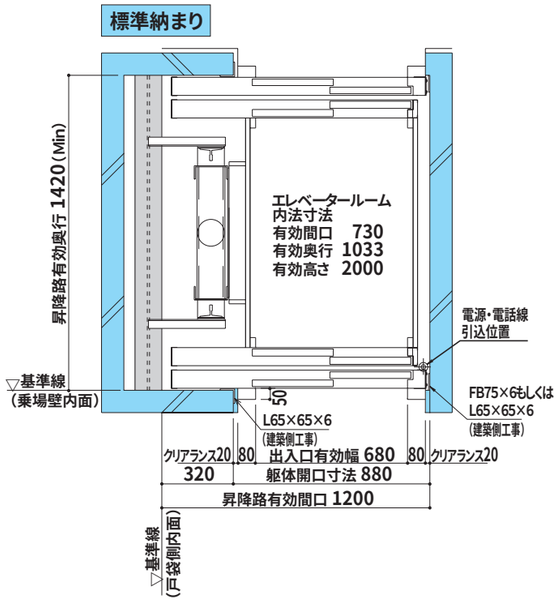




二方向出入口標準施工図

NEW 1212クラシック

標準納まり



◎は電源・電話線引込位置（戸当り側に引込ください）

EVに必要な電気工事	電源 ◎単相200V　30A　◎単相100V　20A ◎アース線D種（第三種）接地　・引込高さ　最下階FL＋1800㎜～2300㎜　・引込長さ 1500㎜ ◎電話機用配線　・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

鉄骨住宅標準施工図 2人乗り用（単位:mm）

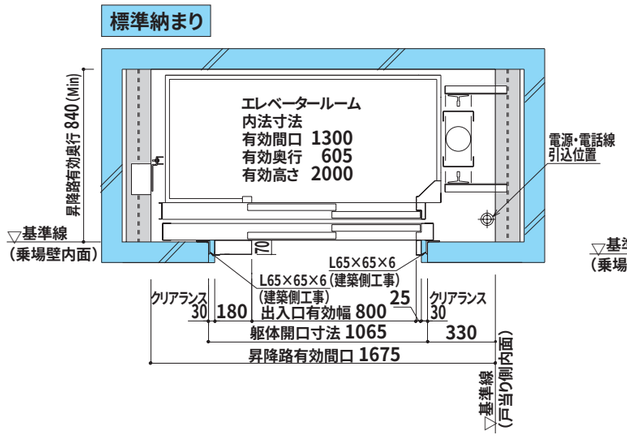
※図は左開きの場合です。

ご注意
・開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。

〈昇降路内に梁がある場合〉

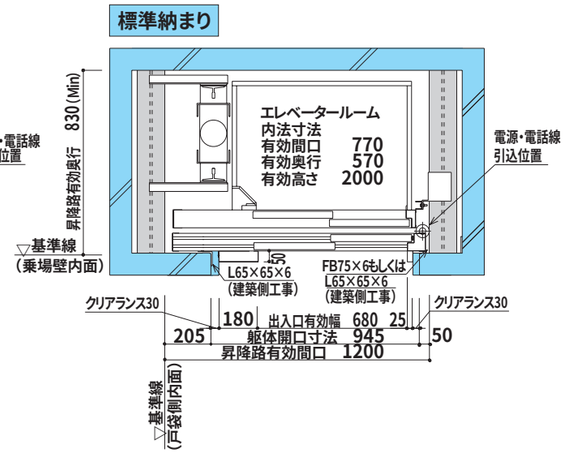
NEW 1608パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



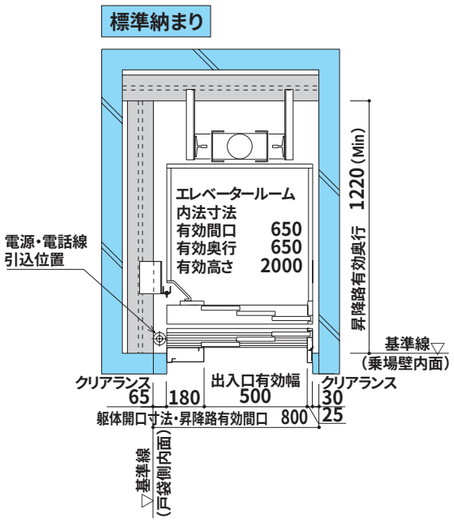
NEW 1208パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



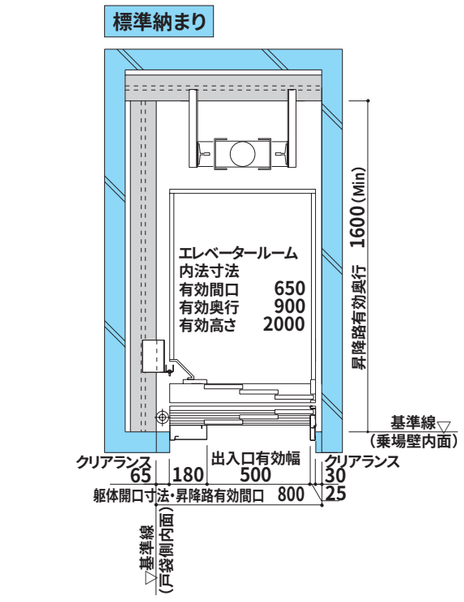
NEW 0812パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



NEW 0816パーソナル （左開きのみ）

標準納まり



◎は電源・電話線引込位置（戸袋側に引込ください）

EVに必要な電気工事	電源 ◎単相200V 30A ◎単相100V 20A ◎アース線D種（第三種）接地 ・引込高さ 最下階FL＋1800㎜～2300㎜ ・引込長さ 1500㎜ ◎電話機用配線 ・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

鉄骨住宅標準施工図 2人乗り用（単位:mm）

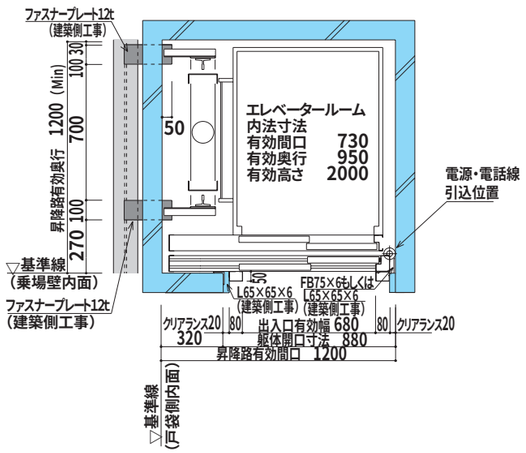
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

ご注意
・開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。

〈昇降路内に梁がない場合〉

NEW 1212クラシック

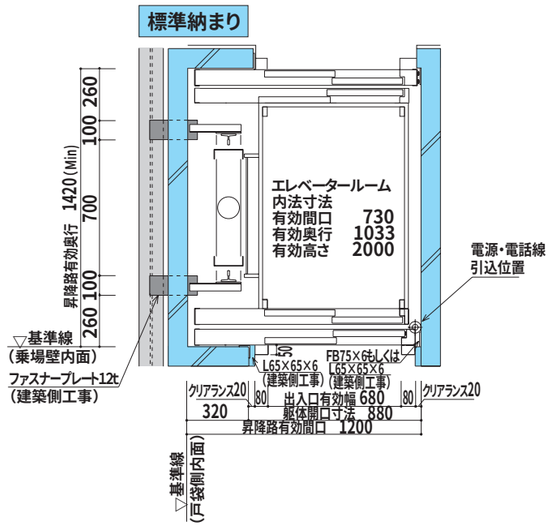
標準納まり



二方向出入口標準施工図

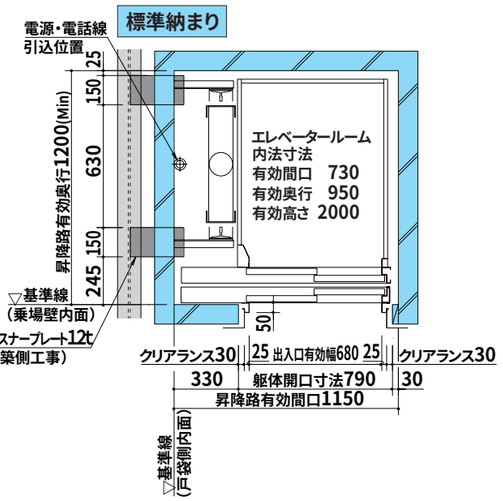
NEW 1212クラシック

標準納まり

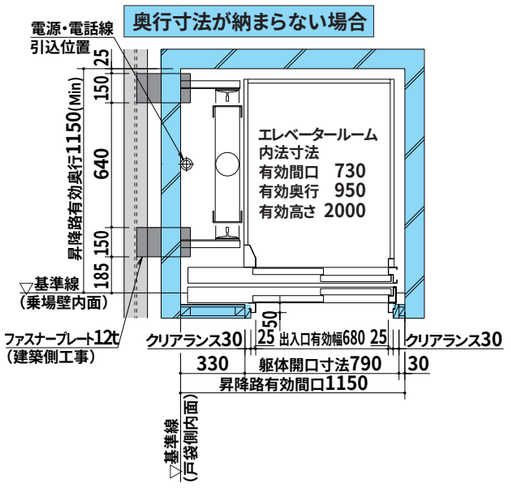


NEW 1212ジョイモダン

標準納まり



奥行寸法が納まらない場合



◎は電源・電話線引込位置（戸当り側に引込ください）

EVに必要な電気工事	電源 ◎単相200V 30A ◎単相100V 20A ◎アース線D種（第三種）接地 ・引込高さ 最下階FL＋1800㎜～2300㎜ ・引込長さ 1500㎜ ◎電話機用配線 ・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

鉄骨住宅標準施工図 2人乗り用（単位:mm）

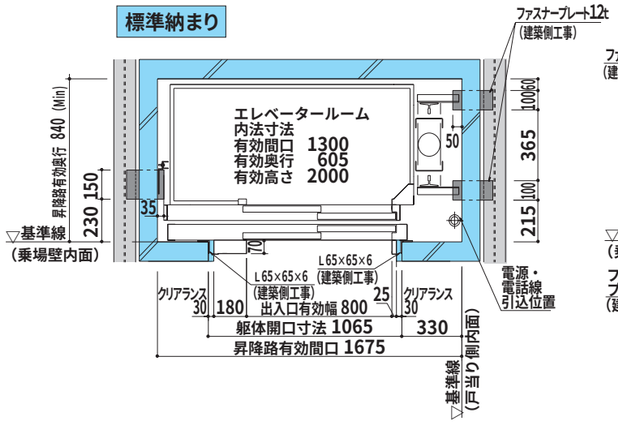
※図は左開きの場合です。

〈昇降路内に梁がない場合〉

ご注意
・開口有効寸法が、最小寸法より大きくなる場合、戸当り側にそで壁を設置してください。

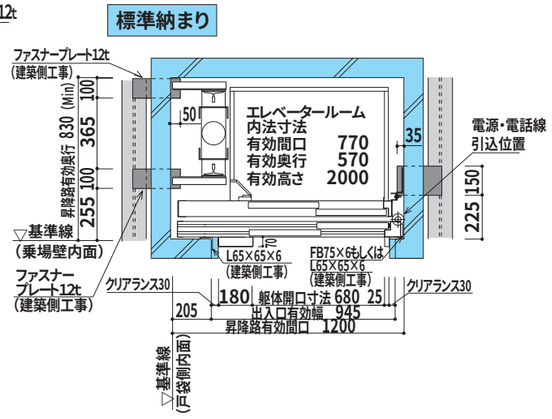
NEW 1608パーソナル（左開きのみ）

標準納まり



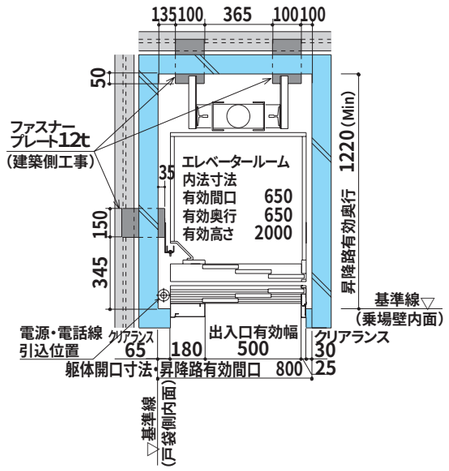
NEW 1208パーソナル（左開きのみ）

標準納まり



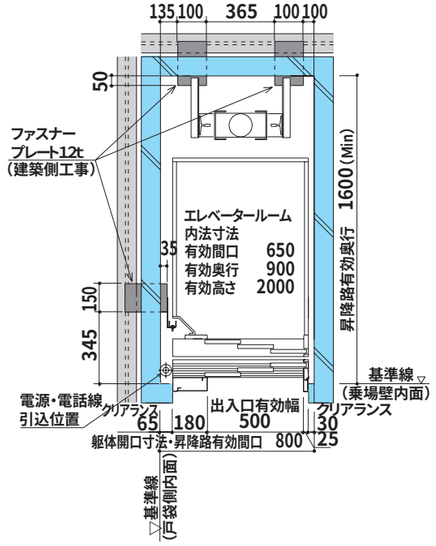
NEW 0812パーソナル（左開きのみ）

標準納まり



NEW 0816パーソナル（左開きのみ）

標準納まり



◎は電源・電話線引込位置（戸袋側に引込ください）

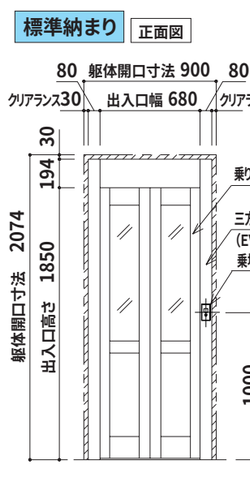
EVに必要な電気工事	電源 ◎単相200V 30A ◎単相100V 20A ◎アース線D種（第三種）接地 ・引込高さ 最下階FL＋1800㎜～2300㎜ ・引込長さ 1500㎜ ◎電話機用配線 ・引込高さ 最下階FL ＋0㎜～300㎜（ジョイモダンの場合 上階FL±200㎜）・引込長さ 1500㎜

鉄骨住宅扉納まり図 2人乗り用（単位:mm）

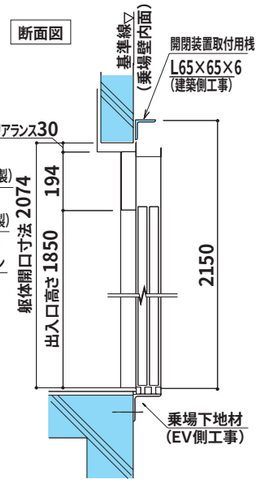
※図は左開きの場合です。右開きは左右対称です。

NEW 1212クラシック

標準納まり 正面図

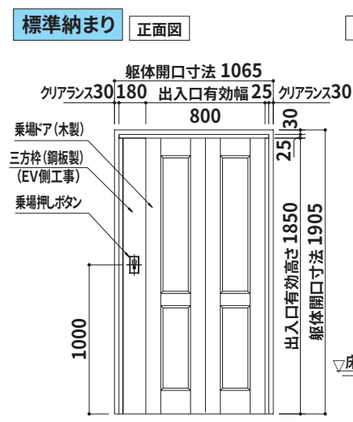


断面図

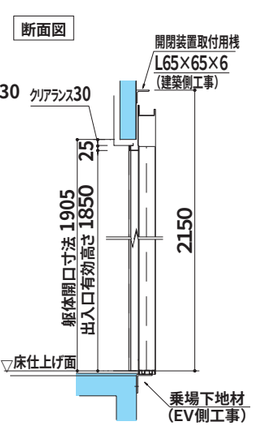


NEW 1608パーソナル

標準納まり 正面図

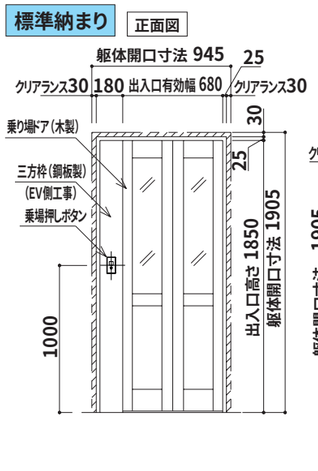


断面図

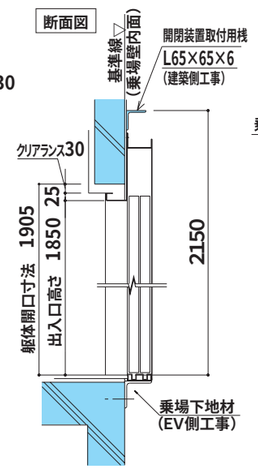


NEW 1208パーソナル

標準納まり 正面図

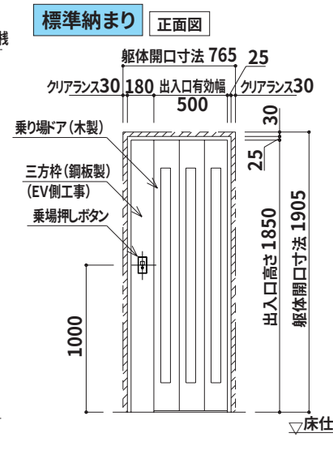


断面図

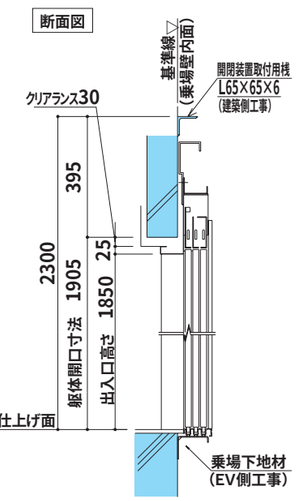


NEW 0812・0816パーソナル

標準納まり 正面図

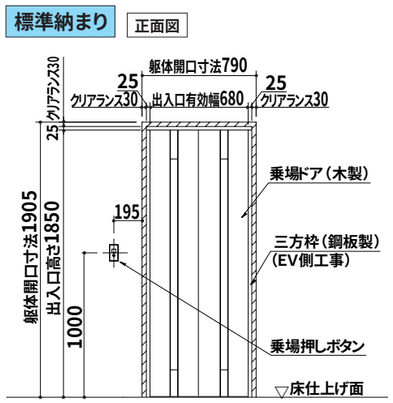


断面図

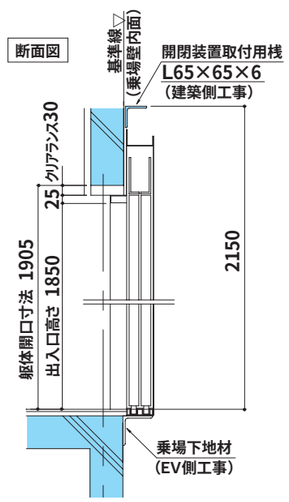


NEW 1212ジョイモダン

標準納まり 正面図



断面図



鉄骨住宅標準施工図（単位:mm）

鉄骨住宅断面図

オーバーヘッド
最上停止階の床面から昇降路の頂部までの垂直距離をいい、この寸法が小さい程建築側の利点となります。

アドバイス
階高が3100mmを超える場合は、エレベーターのレールを継ぎ足すために、中間に梁が必要となります。梁の位置については、お打ち合わせをお願いします。

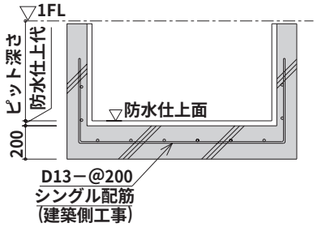
昇降行程
最下階の床面（FL）から最上階の床面（FL）までの垂直距離をいいます。油圧式は7.1mまでのメーカー規制があります。

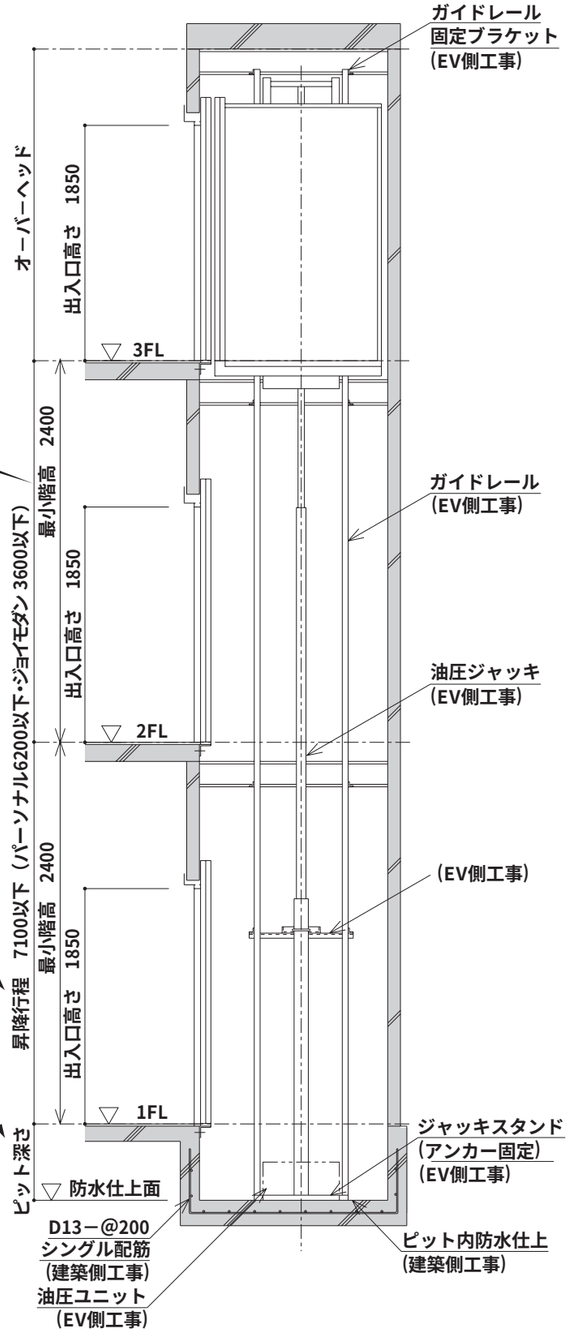
ピット
エレベーター昇降路の最下階床面から下の部分をいいます。

グランド・クラシック・パーソナル・なごみ		
昇降行程	ピット深さ	オーバーヘッド
7100以下	550以上	2750以上
6300以下		2450以上
4100以下		2400以上

※パーソナルは昇降行程6200以下

ジョイモダン		
昇降行程	ピット深さ	オーバーヘッド
3600以下	450以上	2350以上

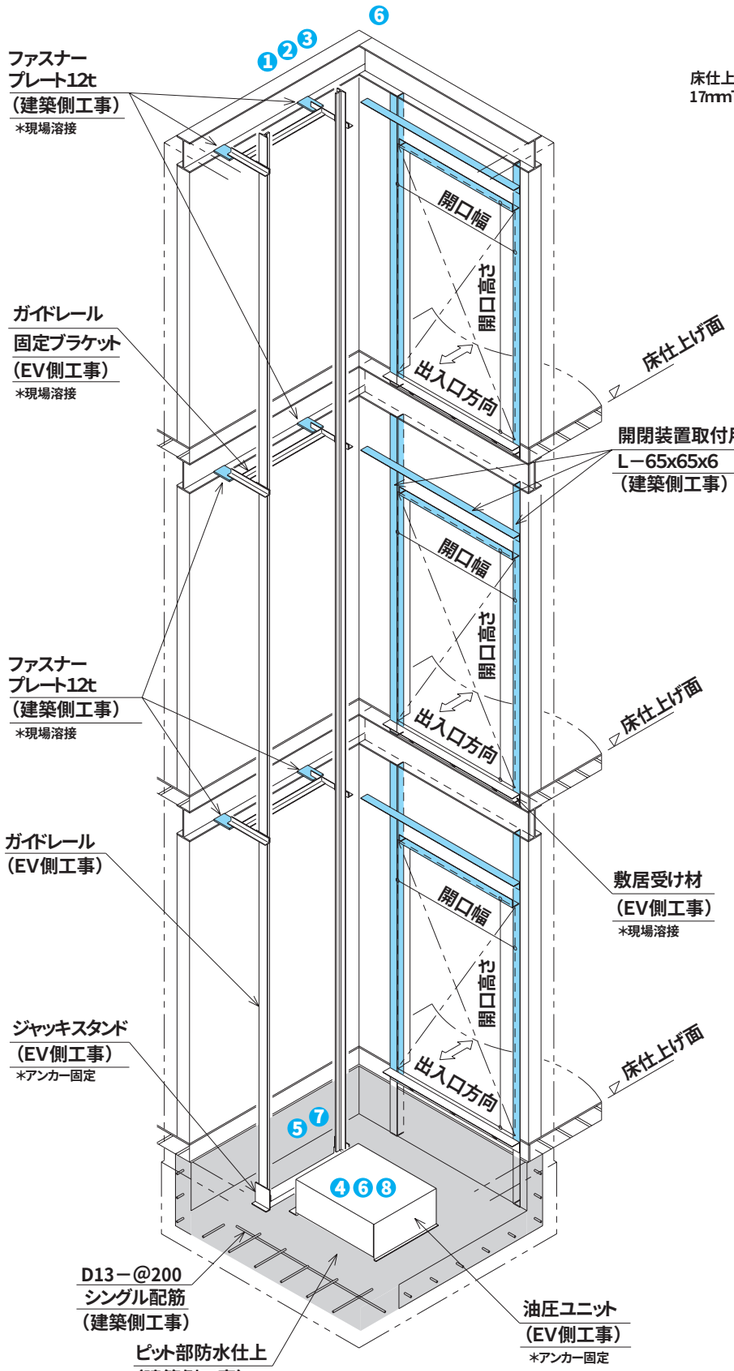


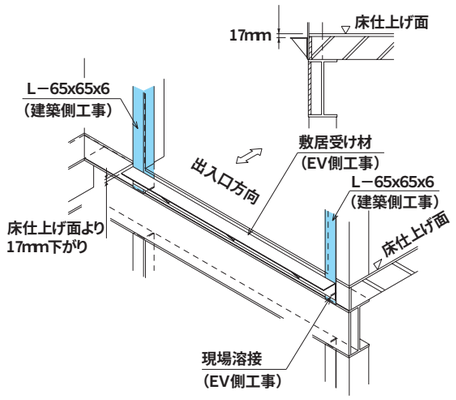


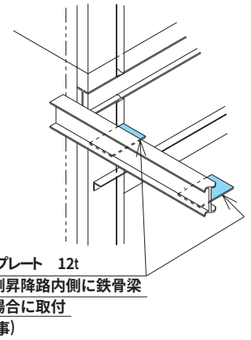
※二方向出入口（オプション）の場合、エレベーターが2停止以上で2400mm以上の昇降距離が必要です。

※ ■ 部分 建築側工事

※開口幅、開口高さは扉納まり図を参照してください。







⚠ ご注意

昇降路

1. 壁はすき間がないように仕上げてください。天井も貼ってください。
2. 昇降路内にエレベーターに関係のない配管、配線を設けることは禁止されています。
3. ボルト等が出る場合、ザグリ処理を施してください。

ピット

4. 床はシングル配筋で、200mm以上のコンクリート仕上げとします。（約1200kgfの荷重が掛かります）
5. 布基礎には通風孔を設けないでください。
6. ピット及びオーバーヘッド寸法を変更する場合、ピット部分に基礎梁等が出る場合はご相談ください。
7. ピット部に通気孔を設けないでください。
8. ピット内に湧水の恐れがある場合は防水仕上げをしてください。その場合防水仕上げ面にて、昇降路開口・奥行・ピット深さの有効寸法を確保してください。

⚠ 警　告

コンクリート設計基準強度は1764N/cm²（180kg/cm²）以上でP13の荷重に耐える構造としてください。（厚さ200mm以上のシングル配筋のRC床としてください。）

電気・電話工事

電源の確保と配線

◎主幹ブレーカーは漏電ブレーカーとしてください。
エレベーターで必要な電源設備容量は下記のとおりです。
◎エレベーター専用のブレーカーを用意してください。
定格は下記としてください。
◎各種ブレーカーはインバーター適合品を必ず使用してください。

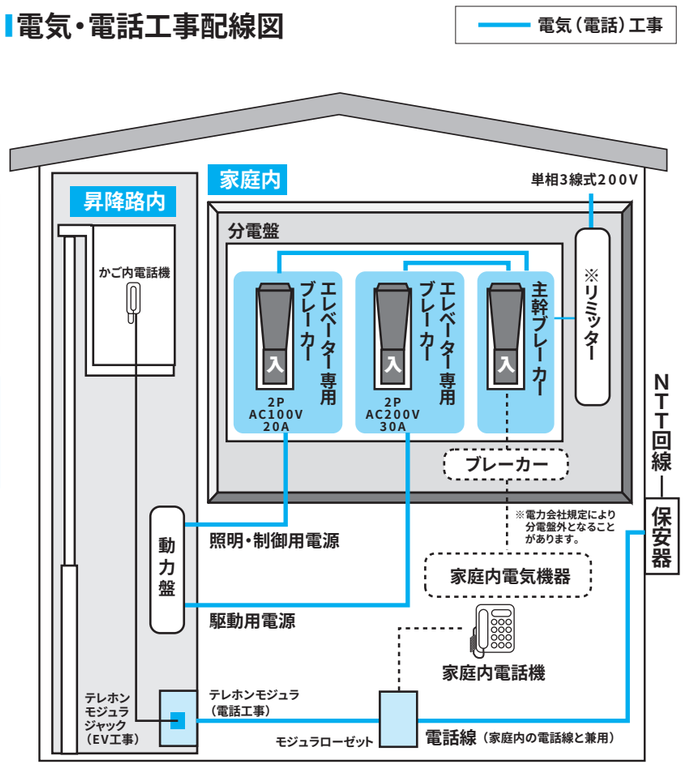
■電源設備容量:　AC200V…3.6kw
AC100V…0.5kw
合　計　4.1kw

■ブレーカー容量:　駆動用容量…30A
照明・制御用容量…20A

警　告
エレベーター用の電源は必ず右図に従ってください。守られない場合、エレベーターが損傷、誤作動する恐れがあります。

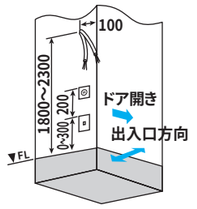
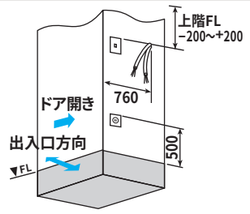
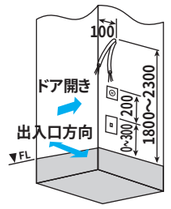
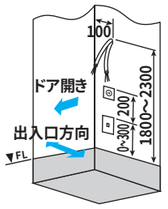
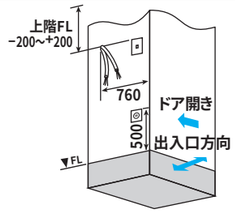
ご注意
主幹ブレーカーの容量は、充分に余裕をもって選定してください。
容量に余裕がないと、エレベーターが急停止したり、建物の電気設備に影響をおよぼす場合があります。
また、アースが接続されていないと、エレベーターが誤作動したり、損傷したりする恐れがあります。アースは必ず用意し、全てエレベーター専用としてください。{D種(第3種)接地}

電気・電話工事配線図



電源・電話線引き込み位置

◎最下階昇降路内の壁に、電源と電話線を支給してください。(引き込み位置は機種によって異なります。下図参照)
※エレベータータイプにより異なりますのでご注意ください。

	NEW グランド、NEW クラシックシリーズ、NEW 1608・1208パーソナル、NEW なごみシリーズ	NEW ジョイモダンシリーズ	NEW 0812・0816パーソナル
左開き			
右開き	 ※パーソナル 1608HS・1208HSは除く。		――

凡例

照明・制御用電源
単相100Vアース付き{D種(第3種)接地}
線引出し長さ:1.5m(アース線含め3本)
電線:単線φ2mm より線3.5mm²以上
電力:0.5kw

駆動用電源
単相200Vアース付き{D種(第3種)接地}
線引出し長さ:1.5m(アース線含め3本)
電線:単線φ2.6mm より線5.5mm²以上
電力:3.6kw

電話線
器具:モジュラジャック
昇降路までの配管:φ25mm以上

メンテナンス用電源
単相100Vアース付き{D種(第3種)接地}

エレベータールーム内専用電話機への電話線の接続について

エレベータールーム内には、非常用の外部連絡用としてワンタッチ通報ボタン付電話機を標準装備しています。
この電話機は、万が一閉じ込められた場合などに外部との連絡手段となりますので、必ず家庭内のアナログ回線(NTTなどの固定電話)とブランチ接続をしてください(電話回線が接続されていない場合は、非常時に外部との連絡が取れなくなります)。
また、この専用電話機は、内線電話や子機としてのご利用はできません。下記のエレベーター工事以外の機器類はお客様で手配してください。

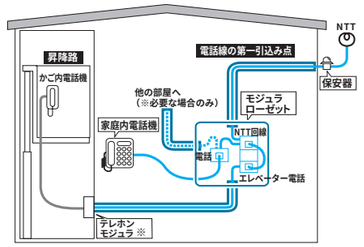
回線・契約	ご注意事項
ISDN回線	TA(ターミナルアダプター)の設置が必要です。TAはお客様にてご用意ください。 (TAは下記のものをご使用ください。) ●アナログ回線電圧48V(NTT標準電圧) ●バッテリーバックアップ付き ●DSU(デジタルサービスユニット)付き
ADSL回線	スプリッターの設置が必要です。スプリッターはお客様にてご用意ください。
ナンバーディスプレイ契約	ナンバーディスプレイ用アダプターの設置が必要です。ナンバーディスプレイ用アダプターはお客様にてご用意ください。

ご注意
●ISDN、ADSL、ナンバーディスプレイの詳細については、回線事業者(NTT等)にお問い合わせください。またLモード契約ご利用の場合は、Lモード対応電話機をお客様の方でご用意ください。
●ADSL回線等でIP電話を利用している場合、家庭内電話回線にエレベーター内電話機を並列接続できない場合があります。詳しくはIP電話のご契約をされているプロバイダーにお問い合わせください。
●ナンバーディスプレイ契約回線の場合、電話番号データが届いた後に音声信号が到着します。ナンバーディスプレイ対応の家庭内電話機が鳴る前にエレベータールーム内の電話機(ナンバーディスプレイ未対応)を取ると、回線が切れ、通話できない可能性がありますので、取り扱いには十分ご注意ください。

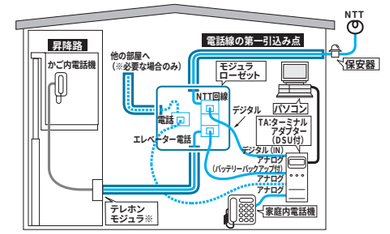
エレベーター内の電話機を使用するために、回線に応じて下記のような準備が必要です。

工事区分　NTT工事　電気工事　エレベーター工事

● 一般アナログ回線の場合



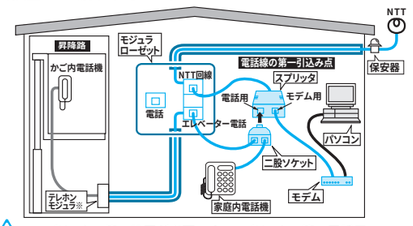
● ISDN回線の場合



ご注意 TA(ターミナルアダプター)の設置が必要です。TA等の電話用機器については、NTTにお問い合わせください。

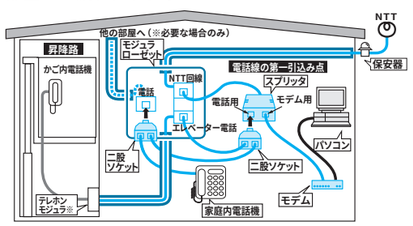
● ADSL回線の場合

■他の部屋への渡りがない時



ご注意 スプリッター等の設置が必要です。スプリッター等の電話用機器はADSLサービス事業者にお問い合わせください。

■他の部屋への渡りがある時

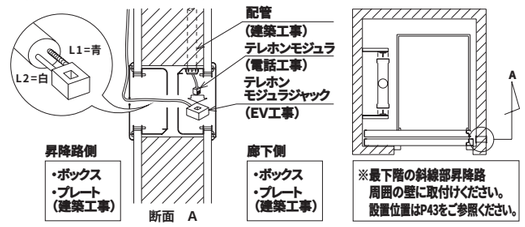


ご注意　建物内でのIP電話(光回線、CATV回線等)ご使用について

IP電話は、使用状況によっては通信品質が不安定であり、緊急時(「110」「119」、弊社コンタクトセンター通報時のフリーダイヤルなど)・停電時(IP電話専用機器に無停電電源装置機能が無い場合)に通話できないことがあります。停電時などの不測の事態においても、エレベータールーム内からの通話を確実にするために、IP電話(光回線やCATV回線等)とは別に、上記「一般アナログ回線の場合」図のように、必ずアナログ回線(NTTなどの固定電話)をご契約していただき、エレベーター内電話機との接続をお願いします。IP電話ご使用時、アナログ回線以外でのエレベーター内への接続による責任は負いかねます。
※回線事業者の提供するサービス内容により異なる場合があります。

※テレホンモジュラ部接続詳細

昇降路最下階側壁に中継ボックスを設けてください。(建築工事)エレベーター工事にて廊下側中継ボックスにモジュラジャックを設け、昇降路内への配線を行います。電話工事にて引き込んだ電話線をモジュラジャックに接続してください。



※最下階の斜線部昇降路周囲の壁に取付けください。設置位置はP43をご参照ください。